

西洋古代哲学史 第1回 (2019.04.09. 火)

1 「今まで、何語を学びましたか、または、学ぼうとしていますか」に対する回答は、以下の通り（母国語は除く）。

5 フランス語（1名）、中国語（2名）、英語（16名）、ドイツ語（13名）、ロシア語（1名）、（古代）ギリシア語¹（3名）、ラテン語（3名）、サンスクリット（2名）、（古典）チベット語（1名）、韓国語（1名）、日本語（2名）、スペイン語（5名）、ポルトガル語（1名）

全体で19名からの回答で、一人で複数回答しています。第二外国語として履修したひとつしか書いていない人もいますので、少なくとも、英語は20名、（古典）ギリシア語は4名であると思われます。

10 この授業では、西洋古典語（ギリシア語・ラテン語）と西洋近代語（イタリア語、フランス語、ドイツ語、英語など）の文献に言及することが多くなるかもしれませんが、原則として、原典とその日本語訳を併記して示しますので、原典の部分を読めなくても心配はいりません。安心して下さい。

2 「なぜ、この授業を受講することになりましたか（この授業を受講する理由）」

15 授業があったから（1名）、
 時間割で受けられる授業が他に無かったから（1名）、
 高校公民の教員免許を取得するため（1名）、
 専門科目として履修しなければならないから（1名）、
 まず最初から哲学の流れを把握したいので（1名）、
 20 母国の哲学の先生が「哲学は科学の母」と言っていたので、日本の哲学の授業を体験したいので（1名）、
 1タームの授業時間が足りないので（1名）、
 （哲学に）興味があるので（3名）、
 現代哲学の本で古代ギリシアはよく言及されるので（1名）、
 25 哲学、倫理学、日常生活についての知識を得ることができるから（1名）、
 高校の倫理の授業で勉強したとき、ものたりなかったから（1名）、
 倫理の授業の開講（数）が少な過ぎたのでこちらを受講した（1名）、
 哲学系の単位が卒業に必要なので（2名）、
 先生のアドバイスを受けた（1名）、
 30 古代哲学の思想の中での「意図」や「運命（因果?）」に関心があるから（1名）、
 昨年、西洋中世哲学史概説を受けたので（1名）、
 判読不能（1名）、

3 質問・要望、感想等

Q.-1 相変わらず お元気でした。

¹ギリシア語、ギリシャ語など、日本語表記は一定しませんが、古代ギリシア語を扱っている人は、ギリシア語と表記することが多いと思います。現代ギリシア語をやっている人は、ギリシャ語と表記する場合があります。

A. -1 カラ元気です。

Q. 0 突然、p. 2 の解説をはじめたのがおもしろかったです・・・(後略)・・・

Q. 0' 赤井先生の授業を受けるのは3回目なので、p. 2 の半角スペースの知識は完全に頭に入っていて、役立つ授業だなあとと思います。

5 Q. 0'' ページの引用の仕方には気をつけるようにしたいと思います。

A. 0, 0', 0'' このことを諸君に伝えられれば、この授業の任務は果たされたようなものです。

Q. 1 「偶然」や「運命」のテーマで語られるところの人間の意図・形而上学的な力に今現在個人的に関心を抱いているのですが、近代的な科学による説明よりも、ちょうど古代哲学の自由な「思索」の方に説得力を感じてしまうのが不思議です。今後の講義で学んでいきたいです。

10 A. 1 「偶然」は、τύχη(tuchē) テュケー という概念があつて、プラトンやアリストテレスでも考えられますが(これは、「必然」ἀνάγκη(anankē) アナンケー と対概念)、「運命」となると、古代末期(ストア派とか、エピクテートスとか)にならないと主題として論じられないような印象を受けます。もちろん、常に存在する問題ではありますが。

15 Q. 2 ・・・先生が講義の触りの部分で「知識を得るのではなく、分からなくなったときに、どうするか考えられる力を身に付けてほしい」というようなことをおっしゃっていたのが印象に残りました・・・

20 A. 2 演習でギリシア語やラテン語の文献を読んでいると、「辞書を調べても、載っていないんですう～」という学生がいました。ギリシア語やラテン語など、語形変化の多い言葉では、これは～の～形、ということを知っても、テキストを読んでいるときに、はじめて出会った語形について、それが～の～形であるかということは、変化の規則を知っていないと、そのままの語形が辞書に載っているわけではないので、わからないのです。この場合、どの規則が適用されて、

25 Q. 3 やはり哲学も日本語もむづかしいものなので、すこし不安も感じました。

30 Q. 3' 西洋哲学史という授業で、アリストテレスとかヘーゲルとか、メンタリズムやマテリアリズムなど基本的なものしか覚えなかったもので、初めての授業はやっぱり五里霧中です・・・英語の人名を理解するのもちょっと難しいです。それは予備知識を備えていないからだろうと思って以後は一層がんばらないと。

35 A. 3, 3' 固有名(人名、書名など)は、できるだけ、原語以外でも示すようにします。もし、分からないことがあれば、直接質問したり、このQ & A の用紙で質問してください。

Q. 4 板書はすべきですか。

A. 4 自分でこれは書き取っておくべきだと感じたら、メモしてください..

Q. 5 西洋古代では、ラテン語(文学)よりもギリシア語(文学)の方が基礎として使われていたのですか。それとも逆ですか。

35 A. 5 逆です。ギリシア語がメインです。ただし、ギリシア語ではなくてラテン語でしか文献が残っていないものもあります。

40 Q. 6 赤井先生の研究室のサイトには入れたのですが、西洋古代哲学史のファイルに入れませんでした。去年も、西洋中世哲学史を受講させていただいており、その時は入れたので、不思議でした。昨年度、西洋中世哲学史のレポートで指導をしていただいた引用や脚注の付け方など、文章の書き方に関して、後期の歴史学での学びで大変参考になりました。レポートのファイルの件を、また、改めて教えていただけるとありがたいです。

A. 6 不思議ですね。そういうのを、thaumazein(タウマゼイン)というのです。レポートについては別途指示しますから、安心してください。

Q. 7 一年次にやった哲学の授業が難しかったので少し心配でしたが、導入がおもしろかった

のでこれから頑張っていこうと思いましたが、ギリシア哲学が実際どういうものか、まだばくぜんとしているので、本なども読んでいたきたいと思いましたが、

A. 7 授業の中で、文献も紹介しますから、図書館で探すなどして、読んでみてください。

5 Q. 8 アリストテレスに関する論考を読み、レポートを作ろうと思っております。恐らく、ドゥルーズの『差異と反復』の一部です。

A. 8 おもしろいものを期待しています。ところで、Minuit (ミニユイ) の Reprise (ルプリーズ) という双書に、

Delueze, G. et F. Guattari, 1991, *Qu'est-ce que la philosophie?*, Paris : Les Éditions de Minuit.

10 があって、ちょっと垣間みているのですが、この本の注で、複数ページを表示するのに、p. 18-19 とか書いてあるので、これは、著者というよりも、編集者の方針なのでしょうが、ちょっと、残念です (sic, pp. 18-19).

また、日本語の本ですが、次の本はおもしろかったです。

山内志朗, 2013, 『「誤読」の哲学 ドゥルーズ、フーコーから中世哲学へ』, (東京:) 青土社.

15 ただし、この本のいう「誤読」は、単なる「間違い」ではなく、正しく読んだ上で、意図的に「読みかえる」ことですから、注意が必要です。

Q. 9 Windows の Word でレポートを作成していると、半角スペースが均等に空けられる場合があるのですが、それは構わないか。

A. 9 仕方ないですね。均等割り付けを手動で解除するしかないですが、そうすると、他の箇所にも不都合が生じるかもしれませんから、TeX を使えば、問題はありませんが。

20 Q. 10 「哲学の世界」の授業ではプリントに「卍」が使われていたし、「科学哲学」では「ハラメント」という言葉をよく使っていた。最近の先生の流行りは何でしょうか。

A. 10 「まじ、卍」は、なつかしいですね。「ハラメント」は、「存在自体がハラメント」というフレーズで、今も現役です。すべての事象を「ハラメント」として捉える「ハラメント哲学」の観点でしょうか。

25 Q. 11 全く関係ないですが、赤井先生はギャンブルなどはされますか？

A. 11 しません。が、「賭け」というと、数学の確率の問題とか、神が存在することに「賭け」る、パスカルの pari を連想します。

Q. 12 本年度もよろしく願います。

A. 12 こちらこそ、よろしく願います。

30 (参考) 文献の表記の仕方

本文中や注で記載するときは、以下のようにする。

G. Delueze and F. Guattari, 1991, *Qu'est-ce que la philosophie?*, Paris : Les Éditions de Minuit.

レポートや、卒論の末尾に、文献 (リスト) として、表示する場合は、以下のようにする。

Delueze, G. and F. Guattari, 1991, *Qu'est-ce que la philosophie?*, Paris : Les Éditions de Minuit.

西洋古代哲学史 第2回 (2019.04.11. 木)

Q. 0 中国版の形而上学², どこでどう入手したのですか. まさか, Amazon で買えるわけでもないですよ. 現地で購入なさったのでしょうか.

A. 0 これは, すでに古書で, 知り合いに, 古本で探してきてもらいました.

5 Q. 1 中国語訳と英語訳の資料は本当に助かりました. そのおかげで授業の内容も分かりやすくなりました. 色々な言語の資料を見ながら哲学を勉強するのは新鮮でおもしろいと思います.

Q. 1' 最初プリントをもらったとき, 中国語版のを見たなら, 親近感を感じました・・・(中略)・・・ちゃんと予習, 復習します.

10 A. 1, 1' 同じテキスト (この場合はアリストテレスのギリシア語) が, 異なる言語に訳されているのを比較して, その違いに気づいておもしろい, と思うのは大切なことです. 配布資料は, あくまでも, みなさんの理解を助ける補助手段ですから, 自分に利用できる範囲で利用してください.

例えば, アリストテレスの『形而上学』を読むとすれば, ギリシア語のテキスト (校訂者によって異なるので, 最低でも, Ross と Jaeger の 2 種類), そして, ギリシア語で書かれたスコリア (註解, アレクサンドロスなど), できれば, 中世のラテン語訳 (数種類), そして, 近代語訳として, 英語
15 訳 (Ross と Tredennick の 2 種類くらい), フランス語訳 (Tricot の訳と註釈), ドイツ語訳 (Rolfes, Bessange), イタリア語訳 (Reale の訳と註釈) などと, 日本語訳 (巻によって何種類かある) を読み方や解釈の違いを検討しながら読むことが必要です.

Q. 2 引用や人名表記について プリント P.3³ 106 行あたりの Hesi odos や Pythagoras, Hecataios, その下 Hesi odos 等, 「o」「a」⁴の前を半角空いているのは, 意味があるのでしょうか?

20 A. 2 単に, MacOS 9.22 の NisusWriter6.0X の不具合ですので, 文字をつめて読んでください.

Q. 3 講義のはじめのシェイクスピア カエサル最後の場面の所謂, 断末魔のセリフがギリシア語で書かれていたというのはとても興味深くおもしろかったです.

Q. 3' 「ブルータス, お前もか」というセリフは歴史的事実に基づいているセリフだと今まで思っていました. 少しショックな気がします.

25 Q. 3'' カエサルが絶命の際にラテン語 (←ギリシア語です) をしゃべっていたという話が興味深かったです. 僕ならごりごりの日本語で泣きさけぶと思います.

Q. 3''' 断片, という形でソロンが哲学をしていた, という文献が残っていることに驚いた. 高校で習った, 「タレスが最初の哲学者」という知識が覆された気がした.

30 A. 3 授業は, 伝言ゲームのようなところがありますから, 正確に伝えるのは, 伝える側と受け取る側の条件がそろわないとむづかしいことを痛感します. 使用言語を整理すると, 17 世紀のシェイクスピアは, 全体を英語で書いている中で, カエサルの台詞だけをラテン語 (「お前もか, ブルータス」) で書いていること. しかし, ローマ人のスエトニウスが全体をラテン語で書いた伝記では, 全体がラテン語で書かれている (カエサルもスエトニウスもローマ人だから当然です) 中で, カエサルの問題の台詞だけが, ギリシア語 (「お前もか, (我が) 子よ」) になっている, という
35 ことです. スエトニウスの伝記の方が史実に近いでしょう. シェイクスピアは, おそらく, スエトニウスを読んでいただでしょうから, 物語に余計な誤解をまねかないように, 「(我が) 子よ」を「ブルータス」にかえて, かつ, 英語以外の言葉として, ラテン語を選んだのでしょうか (17 世紀の観衆, 読者には, ギリシア語よりもラテン語のほうが分かりやすかったでしょうから).

40 また, ソロンが, philosophien (ピロソペイン, 哲学する) したと, ヘロドトスが書いた意味が, 「知を愛する」とか「学問をする」とかいう一般的なものであったかもしれず, しかも, その内容

²日本語の書名には, 普段から『 』をつけて書くようにしましょう. すなわち, 『形而上学』. こうすることで, 一般に学問の名称としての形而上学と, 書名としての『形而上学』を区別することができます.

³手書きのときも, 意識して, p. 3 と書くことを勧めます.

⁴欧文の引用には, 欧文の引用符を使って, ‘o’, ‘a’ と書いてください.

が伝わっていないので、哲学史では取り上げようがない、ということではありますが、タレースよりも前なのは確かです。

普段、当たり前と思っていることを、あらためて自分で調べてみると、違っていたりします。例えば、パナマ運河を太平洋側から大西洋側へ通過するには、西から東へ行くのかと思いきや、実は、南東から北西へ抜けることになる（経度だけで言えば、東から西へ抜ける）、というようなもの（これって、説得力のある例になったでしょうか）。

Q. 4 ヘラクレイトス"博識は・・・(中略)・・・それを教えたことだろう"というのがよく分かりませんでした。

A. 4 もう一度、Fr. 40 と Fr. 35 を比較して、テキストを読んでみましょう。

10 Q. 5 博識なだけでは哲学者ではないみたいなのがありました。博識であることは哲学をするのに必要な条件であると思われませんか。自分は博識だとは思わないのですが、それでも哲学を学べますか。

A. 5 博識と訳しているのは、多くのことに関心をもって学んでいる、という意味と解して、何にでも関心をもって学ぶという態度は必要であると言えるでしょう。

15 Q. 6 今となつては自然科学、法学、人文学、経済学・・・と多様な学問分野が確立されていますが、古代では全て「人間とは?」「世界とは?」を考える「哲学」だったと思うと、今日に至るまでずいぶん細かい体系に分かれたと感じます。これから将来も技術の発展と共に新しい分野が生まれ続けるのでしょうか。

20 A. 6 取り扱う対象を限定した領域としてもつ学問を「領域学」とか「個別学」といいますが（これが、物理学、法学、経済学等）、限定した領域を対象としてもたないのが、古代ギリシアの「哲学」でした。古代ギリシアの哲学者たちと同じ水準で、今、これをやるのは難しいですが、「哲学」は、本来、それを目指さなくてはならないでしょう。

25 Q. 7 デモクリトスの著書が数多く失われているという話を聞いて、哲学にしても、その他の学問にしても、後世に引き継ぐのがふさわしいようなことを言ったり書いたりする人は多くいるように思う。しかし、どこかの時代でその思想や考えが嫌われたり禁止されたりすると、それ以降の時代には伝わらない。つまり、私達が今学んでいるのは昔から伝わってきた一部の情報にすぎない・・・(中略)・・・全体を知ることができない環境にいるということはしっかり自覚しておかなければならないと感じた。自分が学べるのはごく一部に過ぎないのだと肝に銘じて謙虚に学んでいきたい。

30 A. 7 今、自分が知っているのは、(自分が知らない) 全体の一部分である、という意識は重要です。例えば、私が学生、あるいは、教員として直接授業を体験したことがある大学⁵のうち、どれかひとつだけを体験して、これが大学だと思ったら、それはまずいので、かなり違います。

Q. 8 ... (前略) ... ラテン語を勉強しても直接読める文献は少ないということでしょうか？

35 A. 8 古代哲学史の一次資料に関しては、ギリシア語が多いのですが、中世から近現代にかけては、圧倒的にラテン語による文献のほうが多いです。時代を限定しなければ、全体として、おそらく、(残っている文献としては) ラテン語のほうが多いくらいです。

Q. 9 先生はどのような時間の使い方を日頃、心がけていらっしゃいますか。

A. 9 調子がでないときは、長くて5分集中して休憩、というのを繰り返します。

40 Q. 10 「よく生きる」とはどういうことなのかという問いは、高校時代からの私の関心であります。また、時間があれば、掘り下げて教えてほしいです。

A. 10 それを考えさせる古典的なテキストのひとつが、プラトンの『ソクラテスの弁明』ですね。自分でも読んで考えてみてください。

⁵名古屋大学、京都大学、京都教育大学、和歌山大学、京都大学医療技術短期大学部（当時の名称）、尾道市立大学、島根大学、高知大学、放送大学、と書いてきて、広島大学を忘れていた自分に驚きました。

西洋古代哲学史 第3回 (2019.04.16. 火)

Q.-1 最近コーヒーを飲んでも眠気が取れなくなってきました。友人が飲んでたカフェイン剤を買おうとは思えないので、素直に寝たいと思います。

A.-1 眠くなったら寝たほうがよいと思います。私も眠いときは寝ます。眠いのに、1コマ目の哲学史の授業を受けに来たのに、赤井が授業をしに現われなかったら、ああ、赤井も眠いので、まだ寝ているんだなあ、と思って許してもらえる世の中だったらいいのに、と思います (←申し訳ありません)。

Q.0 先生が心霊に興味を持っておられるのが少し意外でした。先生は幽霊や怪奇現象を信じていますか？

A.0 中世哲学史で取り上げた、日本語の「信じる」の意味の分析を思い出しますが、それはさておき、深夜、ピシッ!とか、音がしたり(1回ではなく間をおいて何回も)、文学部の東側の出口から外へ出ると、図書館のほうから、黒い衣装の人が近づいて来るのが見えた気がしたり、ということがあると、気温の変化によって、金属製の本棚が膨張・収縮して、音を発しているのだとか、暗闇で樹木の形が人の姿に見えたのだとか、いわゆる、合理的な説明をすることはできるのですが、現実には音が聞こえたり姿が見えているときには、そんなもんじゃない、という気はします。

Q.1 読み方の違いを検討するのは何だか比較文法の研究方法にも似ているような気がします。言語学は哲学と密接なのは分かっていますが、今日はじめてそれを実感しました。でも、解釈の違いを検討する必要性は理解していますが、読み方の違いを研究するのはなぜ必要でしょうか。

Q.1' 個人的には『ソクラテス隠然の哲学者』のヘラクレイトスのプリントの41番の発言に興味を持ちました。「叡智」というからには物質的なものではなさそうですし、しかも知ることができるようなものというのは普通言われる神のようなものとも異なるような気がします。

A.1, 1' テクストの「読み方」というのは、構文の理解の仕方とか、書かれている文字が何であると認識するか、という次元の問題で、「解釈」というのは、ある読み方ができた上で、そこで言われていることの意味や、背景を明らかにすることです。Q.1'が質問している箇所を例にして、説明してみましょう。(資料を参照)

Q.2 配布された『ソクラテス以前の哲学者』(p. 237, 48)にある、"弓(ビオス)の名は生(ビオス)、だがその働きは死だ。"ですが、さっぱり意味が分からないというか、推測できませんでした。気になるので、教えてください。

A.2 その弓には、名前がつけられていて、それは「ビオス」というのです。ところで、普通名詞としての「ビオス」は、「生、命、生命」という意味です。ですから、相手を射殺す道具である、弓の名前が「生」という逆説的なものだという事です。

Q.3 動因と目的因の結果は形相因なので、一番重要なのは形相因といってもよいですね。

Q.3' 動因と目的因の区別が難しそうです。

A.3, 3' いい感じです。アリストテレスは、四原因のうち、質料であるかないか、という観点でみることがあるので、形相因、動因、目的因の3つをひとまとめにして、形相因だけで代表させることがあります。その場合は、質料と形相の二つだけに着目しています。

Q.4 アリストテレスがタレスをどのように評価しているのか、ということを書いてあるとは知りませんでした。しかもタレスがなぜそう考えたのか、ということにまで分析しているというのは、驚きでした。

Q.4' タレスは根源が水ということしか知らなかったのか、今日の話聞いてなるほどなと思いました。

Q.4'' 四原因説は高校の倫理で少しやって、その時はよく分からなかったのですが、ゴジラとか卒業式などの例で少しイメージがつき、助かりました。

A.4, 4', 4'' 他にも、四原因説について感想を書いた人がいましたが、アリストテレス

がどう考えて書いているかをたどらずに、四原因説をまとめた結果だけを知識としてもっているのでは、知り方がちがうようです。ヘラクレイトスの Fr. 35 と Fr. 40 が指摘していることがここでもあてはまるのかもしれませんが。

Q. 5 今日授業では哲学の文献や資料について興味を覚えました。歴史学では一次資料、二次資料といった明確な区別がありますが、哲学の分野でも、優先して信頼されるテキストとかあるのですか。自分は歴史が専門なので、哲学のことはよくわかりませんが、歴史と哲学の研究方法の違いとか知れたらと思います。

Q. 5' 「Die Vorsokratiker」⁶について

JAAP MANSFELD⁷によって専修された「断片集」は哲学者達の言葉だけを抜き出しているというのは研究するにあたっては、かなりピュアな資料になるのでしょうか（著者の解釈が入っていないという意味）。

A. 5, 5' 簡単に「哲学」と言ってしまうのですが、その「哲学」には、「問題そのものを自分の頭で考える、哲学」と、「他の人がこれまでに考えて書き記した著作が何を言っているかを明らかにする、(西洋)哲学史」と二つの部分からなるはずで、ここでは、特に、後者の「西洋哲学史」の研究方法が話題になっているのだと思います。

そこで、「西洋哲学史」で、一次資料、二次資料というと、一次資料は、本来は、著者が書いたもとの文献、そして、それに基づいて活字化された文献、そして、それらを比較校訂した、いわゆる批判的校訂本のことで、二次資料は、それらについての研究論文や研究書等を指す場合が多いと思います。

Q. 6 知性／理性をもっている ≠ 多くの事物を知っている

ということに、とても納得しました。たくさんを知っているけど、その知識を使う頭がないという意味がないし、その逆も然りです。両方を兼ね備えた人間になりたいと思います。

A. 6 「知識」(=情報)が質料因で、それを使う「知性／理性」(=頭?)が、形相因(および、動因、目的因)ということになるのでしょうか。

Q. 7 四つの質料を動かす「愛」と「憎しみ」の比率が刻々変化して循環する、という考えがとても面白いと感じます。何かを好いたり忌み嫌ったりすること、特に「愛」となると非常に人間的だと思うのですが、その考えを提唱した哲学者(名前を失念しました)は人間の心のはたらきを世界をつくるものとして特に注目したのでしょうか。

Q. 7' 愛だけの世界は素敵だと思ったけど、憎しみがあるから「愛」と認識できたり有難さが分かるのではないかと思います。

A. 7, 7' 四大または四元(火・空気・水・土)とそれらを動かす「愛(ピリエー)」と「憎しみ(あるいは争い)(ネイコス)」で自然(世界)の変化を説明するのは、エンペドクレスですが、たしかに、ユニークな発想です。

⁶これが、書名ならば、*Die Vorsokratiker*、概念あるいは用語として記述しているのなら、„Die Vorsokratiker“と書いてください。

⁷これも、書くなら、Jaap Mansfeldと書きましょう。本の表紙などに、JAAP MANSFELDとか、フランス語の本などでは、jaap mansfeldなどとなっていることがありますが、これらは、すべてデザインとしてそうになっているだけです。

西洋古代哲学史 第4回 (2019.04.18. 木)

Q.0 先生はたくさん資料を配布していただきますが、どのように分類・整理するとよいですか。

A.0 たくさん資料を配布するという事は、講義の構成・準備ができていない、ということでもあります(反省)。配布してしまう資料が、講義の台本ともいえるべき、B4版(B5が2ページ)のプリントに組み込まれていれば、授業ごとに資料を配布する必要はないはずですから。

しかし、資料は配布されてしまうので、それをどうするか、ですね。

配布された日付と内容で簡単なタイトルをつけ、pdf化してパソコンで管理する(これなら、紙の資料をなくしても大丈夫)。

でも、pdf化するといっても、すぐに使えるスキャナが手許にない! という場合は、100均で、クリアポケットの付いたファイルを買ってきて、配布された日付ごとにまとめて、資料を入れておく。

今、思いつくのはこれくらいですが、もっとよいアイデアがあれば、ご教示ください。

Q.1 アリストテレスのロジックについての論述が気になっています。

A.1 アリストテレスの学問体系全体の中での論理学書(「オルガノン」)の位置づけの問題か、それとも、アリストテレスの論理学そのものの内容の問題でしょうか。機会をみつけて取り上げましょうか。

Q.2 中国では"theōriā"を「理論」と訳しているのですが、今日の授業を受けて、やはり少し不適切感を覚えました..

A.2 英語のtheoryは、日本語でも「理論」と訳すことが定着しているのですが、間違いではないのですが、意識している、ということになるでしょう。

Q.3 話はきいていましたが、レヴィナスが「第一哲学は倫理学である」という考えに至った理由が結局理解できませんでした。

Q.3' レヴィナスに"visage"を見つけさせたきっかけがユダヤ人の親族の皆殺しであったとしたら、レヴィナスにとって世の中(の人々)というものは非常に冷たくて恐ろしいものであったのではないかと思います。だからこそ、他人、大勢の誰からの視線にさらされたとき、どうしてもしつき動かされたのではないかと感じてしまいました。

A.3,3' レヴィナスが「第一哲学は倫理学である」というのは、単純で、アリストテレスの場合は、存在(在る, to be, Sein, être)を扱う形而上学が第一哲学で、当為(べき, ought, Sollen, devoir)を扱う倫理学は、そのあとに続くけれども、レヴィナスにとっては、人間は社会の中で、まず最初に、他人からのまなざしにさらされて、これこれすべきである、ということに気づくのであり、従って、最初に位置づけられるのは、当為(べき, ought, Sollen, devoir)を扱う倫理学であり、だから、倫理学が第一哲学である、という話です。

Q.4 訳本の危うさを知れた気がしました。wisdomを「意図」と訳するのは大幅に意味が変わっている気がします。

A.4 正確にいうと、英訳者は、*γνώμη*をwisdomと訳し、邦訳者は、*γνώμη*を「意図」と訳したのであって、wisdomを「意図」と訳したわけではありません。しかし、それぞれの訳者は、それぞれの文脈において、これらが適切であると思って訳語を選んだはずで。

Q.5 各講義・共通資料 ショーペンハウアー：哲学史について P.1(ママ, p.1)の邦訳を読んで... 最初の三行部分が非常にグッときました。頭に入れば、それなりに読んだ人の栄養になるかも知れませんが、食物をかんで味わうという一番美味しいところを"ほかの人"にもっていかれるというのは口惜しいことです。原典は読めませんが、翻訳をできるだけ数多く読んでから書くということに臨みたいです。

Q.5' 「あたかも食物をだれかほかの人にかんでもらうようなものである...」とありました

が、離乳食みたいにはじめはそこからはいつて徐々に大人の食事になるように、はじめはほかのものにかんでもらったものからはじめたいと少し思ってしまいました。

独学で語学を勉強するときって何でどう勉強したらいいのでしょうか。

A. 5, 5' 他人による翻訳や解説でも、批判的に使えばよいのですが、いずれにせよ、最終的に
5 は、自分で原典にあたってみることが必要です。この点については、ヤスパースのアドバイスが適切なことを言っています。

https://home.hiroshima-u.ac.jp/akyah59/2017_an_med_sc_phil_rep.shtml

C_2 ヤスパース「哲学・哲学史について」(『哲学入門』より) : pdf ファイルへ

また、学ぶ目的次第でやることが違います。生身の人間とコミュニケーションすることが目的
10 ならば、その言葉が使われているところへ行って一定期間暮らすのが一番よいでしょうし、本を読むことが目的ならば、できるだけ短期間に文法(文字と発音も)を学んでから、目的の著作を辞書と文法書をたよりに、読んで訳す作業をすることです。その際、なるべく、原典の文章構造がわかるように直訳された翻訳があれば、それも見ながら自分でも訳すことです。

そして、文法を学ぶにも、原典テキストを訳読するにも、それを定期的に強制してやってくれるのが、授業のはずなのですが...

Q. 6 原典が様々な言語に翻訳されて訳者の意図が介入することによって著者の伝えたかったことと違った意味になってしまうというのは現代の書物においてもよくあることですが、それが何百年も前の本となると余計に顕著にあらわれるのだらうと思いました。だから原典を読むのが重要なのですね。

Q. 6' 翻訳と一言でいってしまっても、翻訳された本には翻訳者の意図が絡んでくるということが様々な資料を見る事でわかりました。これからは「翻訳があるからそれを読めばいいや」などという考えで過ごしてはいけなと感じました。・・・英語やドイツなどの本を読むのは正直、苦しいですが頑張りたいです。

A. 6, 6' 翻訳があるものについては、それを鵜呑みにせずに、批判的に読めばよいのです。例
25 えば、原典がドイツ語で、その英語訳、フランス語訳、日本語訳などがあれば(しかも、一種類ではなくて、英語訳が2種類あるとか)、それらを比較して読みます。

また、原典しかなく、翻訳が一切ない場合は、原典を読むことになりましたが、原著者が他に何語を知っているか、使っているかも重要です。原著者が学んで知っていた言葉を自分でも少し学んでみる必要があります。西洋哲学史の場合、それは、多くの場合、ギリシア語とラテン語です。

Q. 7 偶然的なことを対象とするような学問領域はあるのでしょうか。

Q. 7' 高校の時に蓋然という言葉を知ったのですが、習うまでは必然の逆は偶然だと思っていました。

A. 7, 7' アリストテレスの学問の対象領域の枠組みは別にして、哲学は何であれ対象としなければならぬ、ということから、偶然を研究対象とする哲学的考察は行なわれています。その場合
35 は、必然と対にして考察することになりますが、九鬼周造の『偶然性の問題』などがそうです。これはまた、先行研究を吟味の上で書かれていおり、なかでも、ブートルーの『自然法則の偶然性』(É. Boutroux, 1874, *De la contingence des lois de la nature*, Paris.) を踏まえて書かれています。

必然(今あるのとは異なる他の仕方では有り得ないこと)の対概念は、非必然(今あるのとは異なる他の仕方では有り得ること)で、その非必然の中にさらに、蓋然(多くの場合そうである
40 こと)と偶然(規則性が見出されず予測ができないこと)が含まれると考えます。

そうすると、偶然は、事柄そのものだけでなく、それを捉える・認識する主体の存在を前提した言い方になります。頃柄自体としては、必然的な法則に従って生じているのに、その法則を認識していないものにとっては、偶然と思えるわけです。

西洋古代哲学史 第5回 (2019.04.23. 火)

Q.0 1578年発行の書物が、ここに普通にあることにびっくりしました！ どうして先生のもとにあるのですか？ すごいです。

Q.0' 1500年代の書物は、単純にすごいと思いました。先生には、その書物をずっと読める状態に保管しておいて欲しいと思いました。

A.0,0' おそらく、広島文理科大学時代か、初期の広島大学時代の予算があった時期に購入できたのではないかと思います。今ではとても考えられません。しかし、日本国内でも他の大学にもいくつかありますし、中央図書館で貴重図書として保管すると、閲覧するのに面倒な手続きが必要なので、教員の研究室においてあるのです。哲学の分野では、他にも、碓先生の部屋に、たしか、カントの『純粋理性批判』の初版(1781)とか、ヘーゲルの『精神現象学』の初版(1807)とかがあるはずですが（同じようなドイツもののコレクションは愛媛大学にもあります）。まあ、本があるだけでは何の自慢にもなりません。逆に、本はもっていないけれども、図書館で読んで知っている、というほうがカッコイイと思います。

まじ、まじ、まじ、まじ、まじ、卍！

Q.1 プラトンが書物に対する優位を主張しているのは哲学に関連する理由によっていると思うのですが、他の一般市民はどのような理由で対話の方が良いと思っていたのでしょうか。

Q.1' プラトンのような哲人に限らず、ギリシア人一般が書くことを重視してなかったというのは何故なのでしょう？ プラトンたちに影響を受けていたのでしょうか？

A.1,1' 「ギリシア人は・・・」という表現が誤解を与えたのだと思いますが、「ギリシア人一般が」というのは、現在ならば、本や論文や、あるいは、公開しないとしても、個人的にノートをとったり、日記を書いたりしているような、いわゆる教養のある人が、ものを書いて残したり、他人に読んでもらう、ということにそれほど熱心でなかった、という意味で、だれもかれもが、という意味ではありません。

Q.2 残っていないことが、最大の証拠という話がとても印象に残りました。僕はこれまで生きてきた中で、ないものを証明することは難しいことの一つだと思っていたので、斬新でした。無いものを証明するという事は哲学の領域では有り得るかどうか、気になりました。

A.2 歴史学でも、哲学でも、一般に、何かが無いことを根拠にしたり、何かが無いことを証明したりすることは、不可能か、困難なことであるのは変わりありません。今は無いことになっていても、今後、発見されれば、それまでですから。ですから、早川先生の話は、すごい（なぜ、他のみんなが早川先生の説を認めたのか）と思うわけです。

しかし、プラトンの哲学の方法としてのディアレクティケー（問答法）と、アリストテレスの哲学の方法との間にも、似たようなことがあります。

Q.3 文人と哲人の違いは地位や品位の差を感じさせるというよりは、向き不向きがあるのだなあと感じました。

Q.3' 「・・・文章上の工夫をした以上の何ももっていない者」が、哲人と区別された意味での文人という観点に賛成できません。詩や文章を書く過程も「観て想う」という過程なのではないのでしょうか。そういう意味では、哲学自身も文章創作の一環になっていると考えられるでしょう。

A.3,3' いいところを衝いていると思います。実は、プラトンには、理想的な国家はどういうものかを論じる『国家』という10巻からなる対話篇がありますが、その中で「詩人追放論」を展開していて、評判がよくないようです。どの立場で文章を書くにせよ、何かを「観て想う」（考える）のは、たしかにその通りですが、『パイドロス』で言及されている文人のうち、作文家と法律起草家は、予め内容は議会や他の人の要請によって決まっています。それを文章でどう表現するかが仕事なので、文章表現の工夫のために、「観て想う」（考える）ことはあっても、内容を創り出すために「観て想う」（考える）ことはないといわれます。そこで、問題は、詩人です。ホメロスなどが

想定されています。詩人は、語る内容も、文章表現も（これらは分ちがたいので）、工夫して「観て想う」（考える）でしょう。しかし、プラトンが、その「理想国家」から、詩人を追放する理由は、まさにここにありますが、それは、詩人は、あることないことを、「観て想う」（考える）ことによって創り出し、その内容は、学習中の子供たち、若者たちに悪影響を与える、というのです。もちろん、そういう文芸のうち、教育上、よい効果が期待できるものを利用することは否定しませんし、むしろ、利用する立場をとります。

これに対しては、哲人は、文章表現をどうするかを工夫して「観て想う」（考える）のではなく、内容そのものを「観て想う」（考える）とされます。テオリアー（観想）の本来の意味からいって、何を「観て想う」（考える）というと、本来、この哲学の内容を「観て想う」（考える）ものなのです。

プラトン、1979、『国家』（上、下）、藤澤令夫（訳）、岩波文庫。特に、（上）の2巻、3巻を読んでみてください。

Q. 4 すべて手書きでしか記録を残せなかった頃は、完全に書きうつすことができなかつたはずなので、今残っているものも、全く正しいとは言えないと思いましたが、そうすると、現代の技術は便利ですね。

Q. 4' 確かに書かれた文字は、まちがって読まれたり、解釈されてしまってもどうにもできないなあと思いましたが、昔の人の考えを知りたいと思った時には書かれたものを読むほかはないけれど、面と向かっての対話を大切にしなければならないなあと思いましたが。

A. 4, 4' この Q & A は、文字を介して行なわれているけれども、口頭でも補って話しているもので、ある種の対話・問答にはなっていると思いますが、プラトンが、そもそも、対話の形式で書いている、ということは重要な意味があると思います。

Q. 5 神の立場から見ると、私達人間には偶然に思えることも必然となると聞き、私が今生きていることも、今までに出会った人も偶然ではないのかもしれないと考えました。こう考えると、全てのことに意味があるような気がしてきます。しかし、一瞬すれ違っただけの人やたまたま同じ電車に乗った人との出会いが必然的だとしても、そこに意味はないような感じがします。（もちろん、私にとっては意味がないように思えるだけで、私を見ている存在にとっては何かしら意味があるのかもしれませんが）

全てが必然だと言われると、何をやるにも自分で決められることがないように感じるので、私は偶然も存在してほしいと思ってしまいます。

Q. 5' 「偶然」という言葉は日常生活でもよく使いますが、それは私たちがこの世の中に隠された法則や自分でも気がついてない自分の傾向に実は左右されているもの・・・なんて考えると、一見哲学的でなさそうな「神話的」な考えであったり、何か運命論のような考えにも魅力を感じます。それに引っぱられずに偶然否定論にも触れられるよう心がけたいと思います。

A. 5, 5' すべてが決まっている、というのは、決定論 determinism といいます。これは、意志の自由の問題と関係していて、古代、中世、近現代と、常に論じられるテーマです。ジェームズがいう「堅い hard 決定論」と「やわらい soft 決定論」の間のどの段階の立場をとるかで、議論が展開されると思います。徹底した決定論の立場をとると（この立場をとる例は少ないでしょう）、スピノザの場合のように、いわゆる、意志の自由がなくなってしまうことになり、すべてが決まっているのだから、何をやってもやらなくても、自分の責任じゃないから、もうどうでもいいや、となりそうですが（多くの人はそうなるのではないのでしょうか）、それでも、襟を正して、全力で自分が正しいと思う生き方をする、というのは、その人次第なのですが、相当に厳しい要求です。流石（さすが）、スピノザ、という他ありません。

Q. 6 アリストテレスの論理学について・・・位置づけの問題です・・・

A. 6 これ自体、重要な研究テーマになるので、いつか時間をとって考えたいと思います。

西洋古代哲学史 第6回 (2019.04.25. 木)

Q.0 平成, お世話になりました。次の授業のときはもう令和だと思うと、ただ時代の名称が変わるだけの人間がつくりあげたものですが、何か感じるものがあります。

A.0 令和でもよろしくお願ひします。

5 Q.1 過去の人々がどこかの島や教会などから歴史的、学術的価値のある書物を発見したと知ったので、GW中に私も出先で探してみようと思ひました。

A.1 もと、庄屋だったような旧家に、何か書き付けのようなものがあるかもしれませんね。古文書を読む知識が役に立ちますね。

10 Q.2 前回に引き続き先生は古い本をたくさん持っていてすごいと思ひました。紙に残したいとあまり思わないという考えは、自己顕示欲があまりなかったのかなと思ひます。

先生は有意義な休みの過ごし方とは何だと考えますか？

A.2 休みは、休養をとるため、寝ることです。というのも、連休に入る直前の4月26日(金)の午前中の授業と人に会う約束をはたした後、インド哲学の先生と共同でやっている演習は、その日はとりやめ、ということをしてインド哲学の先生から伝えられた後、午後から帰って、爆睡して翌日の夜まで寝てしまいました。どうしてか、振り返ってみると、ほぼ2週間前の4月14日(日)に、神戸の須磨から東広島に帰った後、4月15日(月)から4月26日(金)まで12日間連日、土曜日曜も休みなく(放送大学の授業)、毎日1コマ目から授業があり、特に、最初の週は、広島大学で8コマ、尾道市立大学で1コマ、放送大学で8コマ授業をやった上に、うち、1日は、授業後、夜6時から10時前まで会議にでて、この週は、授業だけでも17コマはやりすぎでした。しかも、17コマは全部違う内容です。そして、2週目も、広島大学と尾道市立大学とあわせて、授業が9コマあり、この週は会議が2つ、うち1つはやはり、夜9時前まで、と働きすぎで、疲れがどつとでたのでしょう。(それに、授業時間そのものより、授業の前になんらかの授業の準備の時間が必要ですから)

25 また、書物を著して公表することについては、名誉欲と自己顕示欲からでしょうか、書物を公表して、かえって墓穴を掘っている例が少なからずあるように思ひます。ホラティウスの次の言葉(詩)は、知る人ぞ知る、有名なものですが、ご存知ですか。

Nonum[que] prematur in annum, membranis intus positus. [Horatius, *De arte poetica*, ll. 388–389]

(原稿を)家の奥深くしまって、九年目まで待たなければならない。(ホラティウス『詩学』388–389)

30 それはなぜかという、次のようなわけです。

delere licebit / quod non eddideris ; nescit vox missa reverti. [*op. cit.*, ll. 389–390]

まだ公けにしていけないものは破りすてることができるけれども、言葉は一旦放たれると後戻りができない。(前掲書, 389–390)

35 つまり、もう取り消しができない仕方で、歴史上に、恥をさらし続けることになる、という警句になっているわけです。

Q.3 古代の書物の解読は本当に難しそうだなと思ひました。一度解読された後では、間違いが見つかったりすることがありそうですね。古い本を読んで自分なりの解釈をすること、また、他の人の解釈を知ることには楽しいと思ひますか？

40 A.3 原著者の意図を理解するための、共同作業と考えれば、他の人の解釈を知ることには、意味があり、楽しいと思ひます。

Q. 4 もし人類が一度滅んだとして、また人間のように会話したり学んだりする種が誕生した場合、私たちがメールやネットを介してやりとりした内容は残らず、機器が動かないからその証拠もないんだなあと思いました。

A. 4 その滅び方にもよりますが、たしか、無人の宇宙船に、メッセージや音楽の音源（グールドの弾くバッハだったか）を載せて、太陽系のそとまで送り出しているんじゃないでしょうか。それは、地球外の生命体がいるとして、どう読んでくれるのかわかりませんが。

Q. 5 自分は今年の7月に教員採用試験を何個か受験しますが、採用され、来年度から教員となれたら、先生のように Q and A を行い、生徒にフィードバック等出来たらと思います。また、遠い昔、問答法を提唱したソクラテスは天才だなと自分は思いました。

A. 5 授業で直接やりとりするのが一番だと思いますが、ある程度は、文字によっても可能です。

Q. 6 コンピューターもない時代に写本と照合していく作業はとても根気のいるものだったのではないかと思います。

A. 6 たしかに、写本は、書き手ごとに異なる書き方のくせもあるので、なれるまで大変だろうと思います。

Q. 7 古代言語は、今使われている言葉と文字の書き方や体系がかなり異なっているということをもって感じました。古代言語と言われるとどうしても尻込みしてしましますが、書き方が異なるという点では日本の古い書物も同じだと、お話を聞いていてふと思いました。

最近、他の言語を学ぶのが楽しいと感じます。先生のおすすめの言語はやはりフランス語ですか？

A. 7 何を研究したいかによって、必要な外国は異なりますから、何語を学ぶかは自分の関心によって決めればよいでしょう。

Q. 8 読んでいる or 読んでいない / 持っている or 持っていない の4通りについて、高校の時の先生は持っている×読んでいないの組み合わせに結構肯定的でした。持っているだけで、その話題について敏感になるとかなんとか。赤井先生は否定的な意見のようでした。

ベッカー先生の、後世になって救われる人が出るような仕事、僕も素敵だと思います。生きている間は目立たないけれど、死後に一部の人に注目される、みたいなコトにあこがれます。

A. 8 どういう年齢の、どういう経済状況の人に対して言うかによって、違うのだと思います。高校生に対してなら、読んでいないけれども、その本を手に入れるだけでも、関心をもっているだろうから、その後、読む可能性が高いから、読んでいなくても持っているだけでもよい、と言われたのではないのでしょうか。年をとってくると、持っているだけで、読みそうにないし、読める語学力もなさそうな人が持っていることがあるので、読む力はあるけれども、貧乏なのでその本を買えないという人にゆずればよいのに、ということがあるからです。そういう場合は、人類全体、あるいは、学問全体の進展という観点からみると、読めないのに持っているということは、学問の進展に対する妨害行為だと言いたくなります。

Q. 9 色々難しくて頭がパンクしそうなので、A_1 も含めてGW中にプリントと頭の整理をしたいと思います。

A. 9 しっかり、休養をとって整理してください。

Q. 10 プラトンの『国家』では、虚構を創作する詩人は追放せよと論が展開されているとお話でしたが、例えばヘシオドスのように神話を語る人もそれに含まれたのでしょうか。アリストテレスはヘシオドスを始原を最初に探究した人と注目したようですが、プラトンは違うのでしょうか。

A. 10 プラトンの詩人追放論は、慎重に扱わなければならない問題だと思いますが、プラトンの問題意識は、国家の守護者となる子供や青年の教育の場面で詩人の作品がどう扱われるべきか、という点にあります。従って、成人にとっては、ホメロスもヘシオドスもよいのですが、学習途上にある子供にとっては、虚構の及ぼす悪影響を排除する必要を指摘しているのでしょう。

西洋古代哲学史 第7回 (2019.05.07. 火)

Q.-1 ゴールデンウィークが終わって次の祝日は7月までないそうです。そんな日々の中でやる気を維持し続けるよい方法はないでしょうか？

A.-1 毎日が休日（休日と祝日を区別しましょう）だと思って、授業に出たり、自学自習するのは自分が好きで選択していることだと思えばよいのではないのでしょうか。（そう思えたら苦勞はないか・・・）

Q.0 アリストテレスとプラトンについて漫才で学ぶという案を出されていましたが、とても面白そうだし、多くの人に興味を持ってもらえそうだと思います・・・(中略)・・・しかし、世の中には、特に原作のファンなど、他のメディアに移されることを好まない人もいます。多少の
10 改変があるからでしょう。

先生は自分の好きな作品がドラマや映画になったらどう思いますか。

A.0 もともと、映画もほとんど見ないし、地デジ難民になる前から、つまり、大学に入って下宿してから、原則として、テレビのない生活をしているので、どういう原作がドラマや映画になっても、知らないで過ごしてきました。というわけで、具体的にこう思った、ということがあ
15 りません。

しかし、ドラマ化や映画化は、ドラマなどの制作者による、原作のひとつの解釈だと思えば、まあ、自由にやればよいのだと思います。

Q.1 磁石がもし意志を持っていたら、すぐくっつくのですごく反射神経が良いと思いました。令和もよろしく願います。令和という響きは好きです。

A.1 磁石がすぐくっつくというのは、むしろ、意志や意識があって判断して動作が起こる、というよりも、意志や意識、それに判断が介在しないで、動作だけが起こる（それが反射神経か）という感じですが、問題は、魂（プシューケー）のはたらきをどう捉えるかにかかっていますね。

令和は、まだ、ピンときませんが、「れい」という音だけが共通ですが、玲瓏（れいろう）というのが好きです。

Q.1' タレスが「無生物もまた、プシューケーを分けもっているとみなした」とありましたが、プシューケー=神的なものとする、何だか汎神論のようにも聞こえました・・・(後略)・・・

A.1' 神や神的なものが何を指すか次第です。プシューケー=生命原理、とすると、宇宙・自然・万有が生きているとうほうに力点があると思います。

Q.2 法学や数学専門の友達によると、論理学が必修科目になっているそうです。論理学を通して、数学の問題を解いたり、事件を分析し推理したりしているようです。そういう事から見れば、確かに論理学が工具⁸として扱われているような気がします。でもB)の考え方も筋が通っていると
30 思いますね。やはり、論理学の位置づけの問題は難しいです。ちゃんと資料も理解し考えて、自分なりの結論を出したいと思います。

Q.2' 「オルガノン」が観想的でも実践的でも制作的でもないのか、あるいはどれにも当ては
35 まり得るのか、という議論はもっと詳しくみてみたいと思いました。

A.2 哲学をやっている人たちの中には、数学まで含めて、すべて（の思考）を論理学に帰着させるとい
論理主義という立場があります（これは、数学をやっている人たちからは評判がよくない）。これは、学問としての論理学の位置づけに関する、哲学の側からの主張のひとつです。

他方、道具としての論理学については、まず、医療関係では、クリティカル・シンキングとい
40 う名称で、与えられた（得られる）情報・条件に基づいて、合理的な判断をする訓練をする科目がアメリカから日本に輸入されています。そして、法務研究科（法曹をつくる大学院）が作られるようになって、法学の分野でも、科目として、論理的思考を扱うものが開講される大学が現わ

⁸=道具。

れました。

Q. 2' ……論理学がどこに分類されるか、という議論について、何故論理学なのでしょう。生物学といった学問もどこに分類するか難しいと思いますが……

A. 2' これが正しいかどうかは別にして、アリストテレスの体系では、生物学は明らかに、観
5 想的学に入っていますが、「オルガノン」（論理学）がどこにも入っていないからです。

Q. 3 4月某日より、風邪（熱）でその週は何も記述することができませんでした……

4月某日の～学のレポートを、某日から取りかかり、テーマを決め、関連文献を読み、チョコ
チョコと書き溜め、コメント P.12⁹のホラティウス『詩学』の九年間ほどではありませんが、約1ヶ
10 月書き足し、削除しながら寝かせ、今日のメ切りになんか間に合いそうです。2週間つぶれて
いたにも関わらず間に合ったのは、早い取りかかりのおかげかと…

よって¹⁰、西洋古代哲学史のレポートも今日から取りかかろうと思っています！

A. 3 取りかかってください。

Q. 3' ゴールデンウィーク中に帰省し、小学校3年のときの作文を集めたファイルを発見しま
15 した。パラパラとめくってみたのですが、恥ずかしくなって読むのをやめてしまいました……
(中略)……ホラティウスの言うように9年も原稿を置いていたら読み返すのも恥ずかしくなっ
て、二度と出版できなくなってしまうのではないのでしょうか？

A. 3' 名誉欲か出世欲か、おれが、おれが、と目立ちたがりが多くて、そうやって公刊された
ものでもよく読むとなんじゃこれは！ というのがあるので、これなら公刊しても意味があると思
えたら公刊すればよいのではないのでしょうか。公刊するとことなく、消え去るのもよいか、と思
20 います。本人が公刊を望まなくても、その原稿の価値を知る人たちがいれば、本人の死後や、存
命中に許可をもらって（ない場合もある）、弟子たちが出版する、という仕方です。世に出て残ってい
るものが多々ありますが……

Q. 4 古代哲学者の中でも自殺した人はいるのでしょうか。

A. 4 エムペドクレスは、アイトナ（エトナ）山の火口に飛び込んで死んだ、という説が伝え
25 られています（ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』8.2.69.）。また、ストア派
のゼノンは、絶食して死んだ、とか、躓いて倒れて（息をとめて）死んだ、とか伝えられています
(ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』7.1.51.)。

しかし、他方、「自殺」の定義にもよりますが、自殺を禁止する説も伝えられています。

Q. 5 大阪梅田のビルからGW中に飛び降りがありましたね。50分くらい必死で説得していた
30 警察が、（その人が）飛び降りた後に動けなくなっていた姿が印象的でした。

Q. 5' 白浜の三段壁が自殺の名所として有名なのは、波が高く、荒れているので、海に飛び込
んでも遺体があがってこなくてよいとされるからだそうです……

A. 5, 5' 大阪梅田の件は、報道がほとんどなされなかったように思うのですが、そのこと
にも問題があると思います。多くの人がいる場所だったので、スマホで実況中継したり撮影したり
35 してしまった人たちに対する批判もあって、マスコミ自体が、自分たちも非難されるのをおそれ
て、触れないようにしている、としたら、それが問題でしょう。

Q. 6 アリストテレスは自然と論理との対応関係についてはどう考えていたのでしょうか。あと
とネオプラトニズムに興味があります。

A. 6 アリストテレスは、論理は自然を写しているという立場にあると思います。あと、プロ
40 ティノス、プロクロスを読んでみてください（『世界の名著』）。あぶないかもしれませんよ、ポル
ピュリオス（アリストテレス註解、『エイサゴーゲー』）を別にして。

⁹ママ, p. 12

¹⁰各講義・共通ファイルのC_10「ゆえに」「よって」は使用するべからず(長尾達也著『小論文を学ぶ』より)を参照。

西洋古代哲学史 第 8 回 (2019.05.09.)

Q.-1 5/7 講義中の先生の「お手振り」が(かなり長いことされていたので)何を意味するのか、気になりました・・・(中略)・・・先生の気持ちのこもった「お手振り」に反応はありましたか？

5 A.-1 おそらく、好意的な反応はなかったと思います。

Q.0 いつも色々な話をされてて、先生は色々な事に興味があるんだろうなと思いますが、逆に興味のない分野はありますか？

A.0 興味のないことはたくさんあると思いますが、興味がないので、それが何だかわかりません。

10 Q.1 よって、ゆえに という言葉、これまでもレポートや小論文で乱用していました。ちょっと格好よくみえる気がしていたのですが、厳密に論理を追求する文章以外では違和感があるものなのです。

15 A.1 「よって」に「酔って(よって)」、言葉を「選って(よって)」、レポートを「縫って(よって)」、あらぬ方(かた)へ「寄って(よって)」、「よって」は、「因って(よって)」か「存って(よって)」か「抛って(よって)」か「由って(よって)」か「縁って(よって)」か・・・

20 Q.2 Aetius がタレスについて論理じている部分をストア的解釈が入り、タレス本人の考えとは異なっているという話を聞いて、やはり自分の考えをそのまま人に伝えるのは難しいと実感しました。自分から出た言葉が他人に入ること、様々な形に解釈されるのは仕方のないことではあると思いますが、解釈する側は自分の解釈だけで納得することがないようにしなければいけませんね。

A.2 タレスの場合は、タレス本人の書いたものが伝わってなくて、他人による伝承にたよらざるを得ないので、他人の介在がなく、直接、本人の書いたものを読める場合は、少し事情が異なります(ショーペンハウアーが「哲学史について」で言っていたように)。

25 Q.3 ○○しようと思うより先に身体が動いている、という研究は、かなりのインパクトをもっていると思います。自由な意思を前提にした「法律」とか「責任」といったものが全部足下から崩れてしまいそうです。先生がおっしゃるように、殺人を犯したその人物を罰するのではなく、人をナイフで刺すなり、ピストルでうつなりした彼(女)の腕を罰する(矯正する?)・・・ようなことになるのでしょうか？現代の感覚だとピンときませんが、手塚治虫先生の作品に出てきそうな・・・面白いけれど難しい問題だと感じています。

30 A.3 神経生理学？(というのがあるのか?) だかのベネットとかいう人の研究でしたっけ？「意思」といういうとき、意識や判断がどの段階で生じているのか、ということはどう定義するか、という問題でもあるかと思っています。ニーチェ¹¹のように、「理性」(とか、脳、魂)は、身体に使われる器官のひとつにすぎない、という見方をすれば、まず、動き始めた手に引きずられて、脳が、うん、それでいいか、と判断して、グサッ！とか、ズドン！といく、と考えて、その身体+脳(と
35 いうよりも、脳込みの身体)を全体として処罰する、というのが、現時点では合理的であるということになるのでしょうか。(もともと、この場合は、いわゆる自由意志はないことになっていきます。)

Q.4 「生成が永遠でなければならない」という考えは「不変の自己」の定義というものは「過去の自分や現在の自分とは分離して別の存在を定義することになる」という考えのもと(に?で?)動いている気がします。

40 A.4 日本語の意味を整理しないとよくわかりませんが、「生成が永遠であり」「過去の自分や現在の自分も永遠の生成の中で生成したもの」とすれば、「生成し変化し続ける自己」以外に「不変の自己」を想定する必要はありません。が、「生成し変化し続ける自己」とは別の次元、別の世界に、特権的な「不変の自己」を想定すれば、常に、「不変の自己」との比較によって、常に「生

¹¹Fr. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Erster Teil, [4] Von den Verächtern des Leibes.

成し変化し続ける自己」を記述することが容易になります。

Q. 5 GW 中に、生協から取り寄せた Andre Basin の “*Écrits Completes*”¹²全集をパラパラと読んでいたのですが、仏語の “*integraux(-al, ale)*” を考える時に、ある知人の研究者が「高潔性」＝「総合性」と見なして、まさに *θαυμάζειν* でした。

5 A. 5 André Basin がどういう人か知らないのですが（映画関係でしょうか）、*integral(-ale, aux)* というと、*Qui n'est l'objet d'aucune diminution, d'aucune restriction* (*Le petit Robert micro*) ということからして、「全体として欠けるところのない、完全な」という意味がもとで、量的な意味で使われると、数学で面積や体積を求める「積分の」という意味でも使われるわけですが、質的にみると、例えば、人間の性質の「完全性」ということのひとつに、「高潔さ」というものを認める立場
10 をとれば、辞書には語義として載っていないなくても、*integral* の意味のひとつに、「完全な、すなわち、高潔な」という解釈があっても、不自然ではないでしょう。

Q. 6 小学校の時、担任の先生に「考えをもつ、とか意見をもつ、というときは、実際、手に持つわけじゃないからひらがなで書くんだよ」と言われたのを思い出しました。その時から意識してきました。

15 A. 6 私も、小学生にもどって、その先生の授業を受けたかったと思います。O. D. のころ、あるエジプト（アラブ連合共和国）人にアラビア語を習っていたことがあります、「エジプトへ行って小学校からやり直したほうがええんとちゃうか」みたいなことを言われたことがあります。

また、前回言い忘れたこととして、接続詞的につかうときは、「～とき」で、はっきりと名詞の意味があるときは、「時」という区別をする人もいます。

20 Q. 6' 「持つ」と「もつ」の違い、大変勉強になりました。

Q. 6'' 「持つ」と「もつ」は勉強になりました。卒論に書き入れられそうです。

Q. 6''' 「持つ」と「もつ」の表記区別のお話はとてもためになりました。「分かる」「わかる」「解る」の使い分けも、人によってまちまちな気がするし、私個人としては、「物」と「もの」や、「事」と「こと」の使い分けというか区別（？）についても気になります。今までなんとなく無意識的に引っかかっていたことが、今日はっきりしました。
25

A. 6', 6'', 6''' 「持つ」と「もつ」以外にも、パソコンやワープロが普及する以前の書き手には、区別をする人たちがいましたので、20 世紀後半の文献を読んで自分でも調べてみてください。

30 なお、何年も前に、言語学（ドイツ語学）の植田康成先生がおられた頃、すでに、グラーツ大学（オーストリア）の名誉教授になっていた、Haller 先生に講義・講演をしていただいたことがありましたが、普通、ドイツ語では、*Ding* が「もの、物」、*Sache* が「こと、事」を表すと辞書にあるけれども、Wittgenstein の使い方では、*Sache* が「もの」を（*Ding* が「こと」を表すとは言い
なかつたように思うが、こっちもあるかもしれない）表す場合があつて、これは、オーストリア（ウィーン？）の方言に由来する、というようなことでした（記憶が曖昧ですみません。間違っているかもしれません）。

35 Q. 7 「無限なもの」というものを私は高校の時「 ∞ なもの」という捉え方をしていましたが、「無限定なもの」だと知り、以前より理解が増しました。とはいえ、結局、漠然としていることには変わりはないようです。

A. 7 そうですね。無限定で、まだ、何でもないが、何にでもなる、もとのもの、ということですから、それは何か？ と具体的に問われると、何でもない、としか言えないですから。

40 Q. 8 雨が重くなると土という意味はどういうことですか？

Q. 8' アナクシメネスの考えを聞いて、中国の五行思想を思い出しました。まさか濃さで変化するとは思ひもよりませんでした。

Q. 8'' アナクシメネスのアエールの話は中国思想でいう「気」のようなものなのかなと感じま

¹²André Basin, *Écrits Completes* ?

した。ギリシアも中国も詳しくないので何とも言えないですが。

A. 8, 8' 8" 「雨が重くなると土」というのは、「雨がさらに濃密になると土」と理解して、アエールは、希薄になると、火になるが、逆に、濃密になると、風→雲→水→土→石となると、アナクシメネスは考えて、Q. 8の質問は、この過程のうちの、水→土の部分であると思います。

- 5 ところで、中国の五行思想という、オリジナルは、どうも自然哲学に関するものではなくて、政治思想に由来するようです。小島祐馬の『中国思想史』によると、

然らば五行思想は何時頃から確かに現われているかとうに、その最も信を措き得るものは戦国の時代、鄒衍の五行説であろうと思う。鄒衍の五行説は、いわゆる五徳終始の説である。五徳終始とは、一代の帝王は必ずこの五徳の一を備えて王者となるとの思想である。五徳は火
10 水土木金の五つの徳であり、すべての王朝はこの五徳の順序に従って更代すべきものであるとする。(小島祐馬, 2017 (復刊), 『中国思想史』, KK ベストセラーズ, p. 181.)

ということです。鄒衍(すうえん)は齊の人で、孟子より少し後の人と言われます。小島祐馬先生はさらに、「印度・ギリシアなどにおいても、地水火風をもって宇宙の構成要素と考えているが、古代の中国人が果たしてかかる思想を有したかは疑問である。中国人は古来極めて実際的な実利
15 主義に終始し、宇宙論のごとき高遠な問題には本来興味を有しない。そのこれを有するに至ったのは、むしろ外来文化の影響といわねばならない」(前掲書, p. 183) と言っておられます。

また、「気」のほうですが、このほうがアエールに近いように思われます。朱子に先行する、北宋五子のひとり、張横渠(ちょうおうきよ, 1020-77)について、以下のように言われています。

張横渠の思想は「気」の哲学である。現代中国の学界では、中国の哲学の歴史に三つの流れを認め、伊川・朱子の「性即理」の哲学を客観唯心論(客観的観念論)、陸象山・王陽明の「心即理」の哲学を主観唯心論(主観的観念論)、そして張横渠および張横渠の思想をはるかに継承した明末清初の王夫之(王船山)の「気」の哲学を唯物論とし、そのうち唯物論哲学こそ最高のも
20 物として、張横渠の哲学を高く評価するのが普通である・・・「気」とはいったい何か。気は単純に物質であるのではなく、むしろ生命原理、生命原体ともいべきもの、とする考え方もありうると思うが、今は、そのような生氣論的なものをも包括した意味で、物質
25 原理としておく。(島田虔次, 1967, 『朱子学と陽明学』, 岩波新書, p. 65.)

そして、この「気」が、陰による凝集と、陽による発散によって、自然界の現象を生じさせている、というあたりは、アナクシメネスの濃密と希薄とそっくりです。ここで、また、先の小島祐馬先生の『中国思想史』から引くと、

彼は、こうして気の一元を主張し、天地の現象はすべて陰陽の作用から生ずるとしている。曰く、陰の性は凝集であり、陽の性は発散である。陽気が昇ってたちまち陰気に遭えば、降って雨となる。何となれば、陽気は軽く陰気は重いからである。陰気が昇って陽気に遭えば、陽気
30 これを助けて飛揚しつつ雲となる。陽気が陰気に伏在して出ることができない場合には、ついに爆発して雷電となって鳴る。陰気が内に凝って、陽気がこれに入ろうとして入ることが
35 できず、その周囲をめぐる時は、すなわち風になる、という。(小島祐馬, 2017 (復刊), 『中国思想史』, KK ベストセラーズ, p. 415.)

ということで、少しわからないこともないではないですが、かなり似ています。

Q. 9 アルケ＝プシューケー ですか。

A. 9 アルケー＝プシューケー です。アルケー(何かの原理, 始元, 始原, 始源, はじめのもの, もとのもの)＝プシューケー(生命のもと, 動かすもの)という意味です。
40

Q. 10 自分は去年、「論理学」を受講しました。その中で、「論理学では中々飯が食えない」という先生の言葉が印象的でした。僕は、論理学は難しいと思いましたが、必要な学問だと思ったので、もっと評価が上がってほしいなと思いました。

A. 10 おっしゃる通りだと思います。哲学・西洋哲学史の研究には、西洋古典語（ギリシア語、ラテン語、扱う分野によっては、ヘブル語、アラブ語）、論理学の知識が必要ですが、それは、アリストテレスの「オルガノン」が道具として用いられるのと同じで、これら自体が研究対象ではなく、哲学・西洋哲学史の研究のための道具として学ばれる必要があります。その手始めに、教養的教育科目の中に、これら（ギリシア語、ラテン語、論理学）が開講されているのが望ましいのです（現に、そうになっている大学がいくつかあります）。できるだけ早い時期に、入門的なことをかじっておいて（学んでおいて）、自分の専門に応じて、必要があると判断したら、もっと詳しく学ぶ、というのがよいでしょう。

それらは、そのまま注目され脚光をあびるようなものではなくて、あくまでも、哲学・西洋哲学史を学び研究するための道具としてあるものです（もっとも、ギリシア語、ラテン語、論理学のそれぞれを研究対象として専門に研究する分野はあります）。それらはまた、哲学の基礎でもあり、大学の履修科目としてみれば、それらを一定以上の成績で修めてはじめて、それらを使って哲学・西洋哲学史を研究できると言えます。

これらを学ばずに、哲学をやっているつもりでいると、馬脚をさらすことになります。

実際、実践だとか応用だとかいって、ずっとけている例が少なからずありますが、すでに 19 世紀に、ニーチェが看破しています。

20 Nachweis der barbarisirenden Wirkungen der Wissenschaften. Sie verlieren sich leicht in den Dienst der „praktischen Interessen“. [Nietzsche, *Philosophenbuch*, MA, 6, S. 8.]

学問の野蛮化する効果を指示すること。学問は「実践的関心」への奉仕のうちに、容易に、自己を失って行くものである。（渡辺二郎訳）

25 このことは、哲学と並んで、もう一方のきわめて観想的（理論的）な学である、数学の分野でもあてはまるようで、数学者どうしの会話に次のようなものがあります。

30 「・・・良くできる学生には『純粋数学をやりたまえ』と勧める一方、普通のできの学生にはむしろ応用数学のほうが良いだろうと助言するのだったが、その裏には『この学生のできるのは高々そんなものあろう』という考えがかくされていた」と彼（ジャン・デュドネ）は 1990 年に M. シュミットに語っている、さらにつけ加えて、「しかし本当はその反対が正しいのだ。良い純粋数学ができて初めて良い応用数学をやるようになれるのだ」（M. マシヤル、2012, 『ブルバキ 数学者達の秘密結社』, 高橋礼司（訳）, 丸善出版, p. 189.)

集中講義の「論理学」をとっていない人は、是非、受講することを勧めます。なお、哲学と論理学の関係では、数式が苦手な人も、ほとんど数式がでこなくて、縦書きの本として読める本がありますから、図書館や書店で手にとって見てみてください。

35 八木沢敬, 2018, 『「論理」を分析する』, 岩波書店.

吉田夏彦, 1977, 『論理と哲学の世界』, 新潮選書. (これは、ちょっと前に、文庫化されたので入手しやすい. → 吉田夏彦, 2017, 『論理と哲学の世界』, ちくま学芸文庫.)

西洋古代哲学史 第9回 (2019.05.14.)

Q.-1 授業と全然関係ないし先生に言うことでもないとは思いますが、講義中に度々寝てしまい、先生に不快な思いをさせているだろうと申し訳なく思っています。

5 以前友人と、講義に出て寝るか、サボって家で寝るか、どちらがいいかという話をしたことがあります。先生はどう思われますか。

A.-1 寝るのに徹するならば、家に帰って寝たほうがよいですが、授業に出席している他の人に迷惑をかけないならば、私がかまいません。むしろ、学生が寝てしまうほど、つまらない授業をしてしまったと、自分を責めるかもしれません。

Q.0 中間レポートの提出は最終レポートの期限より前ということでもいいのでしょうか。

10 A.0 その通りで、中間レポートは、最終レポートより前に提出しないと意味がありません。

Q.1 深く研究したことはないが、金・木・水・火・土という五行思想はまさに古人の宇宙構成についての思想だと思っています。哲学の先生も、試験問題もそう言っていますから。果たしてそんな思想はあるかどうかは分からないが、私はあると考えています。しかし、中国人は古来宇宙論に本来興味を有しないという考えには賛成できません。「道家」の思想の中で非常に重要な「道」も宇宙(天地)構成についての考えではないですか。そして「気一元論」など素朴な唯物観もあります。

A.1 コメントありがとうございます。

15 一般に言われている、陰陽五行説は、後世のもので、小島祐馬先生の指摘は、文献で確認できる起源とみなされる、鄒衍(すうえん)の説は、自然や宇宙を論じたものではなくて、帝王の五つの徳のことである、ということです。また、老子の「道」も、自然だけを論じるよりも、人間の倫理や道徳と連動している、ということにポイントがあります。

いずれにせよ、通説は通説として理解した上で、実際のテキストでどこまで確認できるのか、ということが哲学史や思想史を学問として研究する上では大切なことです。

25 Q.2 コリングウッドの著作のところで、古代、近世の研究が進んでいるが、中世はあまり進んでいなかった、というお話があったのが気になりました。中世が軽視されていたのか、あるいは、古代、近代が重要視されていたせいで、相対的に軽視されているように見えるのか。どちらにせよ、その理由が気になるところです。古代、近世にそれほど強くひきつけられる何かがあったのでしょうか。

30 A.2 単に、中世の文献学研究が進んでいなかっただけのことです。今では、本になって読めるけれども、コリングウッドが『自然の観念』を書いた当時は、手書きの写本が修道院や図書館にあるだけで、専門家しか読めなかった文献が、多々あります。それに加えて、今でも、哲学をやっていると自称する人たちの中では、中世というと、どうせ、キリスト教神学の世界で、神がでてくるんでしょう、という見方をして、テキストを読んだことがない(もっとも、読むには、中世ラテン語の知識が必要ですが)という輩が少なくないと思います。そして、おそらく、関心のなさに
35 比例して、中世哲学についての知識も、古代や近現代に比べておそまつなのではないのでしょうか。

Q.3 <神→アダムとイヴ→人間>という説ではなく、<人間→神>という考え方は、理解できることでもあるし、人間の「考える力」というものに重きを置いていると感じられた。

Q.3' 「人間が最後に神を作った」を聞いた時、「???」となりましたが、確かに人間が神々を想像しているわけだし、妙に納得しました。結局「神」とはなんなのか謎です。

40 Q.3'' 神の位置づけはいつも難しく感じます。神イコール宗教ではないことがとても参考になりました。思想は難しいです。私は中学校の社会の教師になりたいと思っていますが、先生なら、もしも、中学生に対して、神を教えるならどう説明されますか。

A.3,3',3'' アレグザンダーのことは、記憶によって話したので、コリングウッドとアレグザンダーのテキストに基づいて、どう言っているのかを確かめる必要がありますね。

中学生に「神」を説明するのはむづかしいですが、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教のように、世界を創造したものとして、それが存在すると信じられる信仰の対象である場合と、近現代（とくに、18世紀以降）の哲学者が言うような、この世界から超越した存在（超越者とか絶対者のように、すなわち「神」とは言われない）のように、信じられるよりも、（理論的に）要請される存在である場合などがあって、お祈りすれば、何か願いをきいてくれる、というようなものではない、というかもしれません。

なお、古代原子論のエピクロス（テキストはギリシア語）の思想を、ラテン語の詩で表現した、紀元前一世紀のルクレティウスは、『事物の本性について』で、すでに、こう言っています。

cetera quae fieri in terris caeloque tuentur

10 mortales, pavidis cum pendent mentibu' saepe,

et faciunt animos humilis formidine divom

depressosque premunt ad terram propterea quod

ignorantia causarum conferre deorum

cogit ad imperium res et concedere regnum. [Lucretius, *de rerum natura*, VI. 50 – 55]

15 地上および天上において人々が起こるのを見るその他のものが

しばしば怖れを抱く心の上に望むとき、

神々への恐怖で人の心を低く垂れさせ

地面におしつけてしまう。なぜなら、

その原因への無知が、万物を神々の支配にゆだね

20 その統治を認めさすのだから。[藤澤令夫訳]

つまり、実際には存在せず、人々の想像の産物でしかない「神、神々」への恐怖心を、時の権力者が利用して、無知な人々を支配する手段に利用しているのだ、と暴いているのです。紀元前に、すでにこういう人もいた、ということです。

25 Q. 4 土地や場所、物質に神が宿る思想というのは、日本の起工式や地鎮祭にもみられる考え方と似ているのか、と感じた。

Q. 4' 「入り給え、ここにも神々がおわす」というヘラクレイトスの言は、ある種の「物神論」で属し、スピリチュアルな精神論にみえるのは気のせいでしょうか。

A. 4, 4' どちらも、「神々」や「神」で何を想定しているかによると思います。

Q. 5 近・現代の哲学史になってくると、何故か、自分にも受け入れ易く感じます。

30 A. 5 しかし、受け入れ易くない古代・中世の哲学史を、何故そうなのか、と悩み考えながら学ぶのが勉強ですし、そうしないと、わざわざ、大学で学ぶ意味がありません。

Q. 6 どこかの哲学者が・・・進歩、改善もただ変化しているだけだと言っていました。その時代に正しいと思われているだけで、今正しいことのものには大間違いかもしれないんだなと思いました。

35 A. 6 その時代に支配的な人たちが正しいと思っているだけで、その時代にも、少数でも、なんか違うんじゃないか、と思って主張する人たちがいることが大切なのではないかと思います。

Q. 7 Wittgenstein の Ding と Sache の使い方について知り・・・文章を読むときには自分の前提に立って読むのではなく、著者の持っている前提を知って読む必要があると強く感じました。（例えば、神という言葉が出てきても、日本語のもつ神のイメージとは異なるということ、など）

40 A. 7 それには、例えば、プラトンのテキストを理解するために、ホメロスやヘロドトスなども読み、テキストを当時の状況の中においてみる必要があるでしょうね。

西洋古代哲学史 第 10 回 (2019.05.16.)

Q. 1 確かに弟子が師を越えることがないと学問にしろ何にしろその分野のレベルが上がることはないだろうなと思いました。

A. 1 量的に縮小再生産ならまだしも、質の低下を招くので危機的 (critical) ですな。

5 Q. 2 人は人に似た神を・・・と聞いたとき、RADWINMPS の『おしゃかしやま』という曲のワフレーズを思い出しました。曲の冒頭で同じようなことを言っています。聞いてみてください。

A. 2 RADWINMPS とうのは、スクール・オヴ・ロックで、ラットイン先生 (と聞こえる。実は、ラッドウィン先生なのか) と呼ばれている人たちのことですか。詩は誰が書いているのでしょうか。この番組でその曲がかかっていたら、聴いたことがあるのかもしれませんが、記憶にござ
10 いません。注意してみます。

Q. 2' 「自分たちに似た神様をつくる」というのは、私が小さい時子供ながらにみんな同じ人間なのに神様が違うのはどうしてなのか、もしかしたら神様はいないのではないかと思っていたことを思い出しました。

A. 2' 「みんな同じ人間なのに神様が違う」というのは、ユダヤ人も、アジアの人も、同じ人間なのに、信仰している神 (神々) が違う、という意味でしょうか。そのことから、神 (神々) は、人間が思い描いているだけで、実際には存在しない、と推論したのなら、たいした子供だったの
15 ですね。

Q. 2'' Xenophanes が全てが分かることはないと言っているのは無知の知と似ているなと感じました。

20 結局、人間は自分たちに想像できることの中でしか知ることはできないのだと感じ、私はむしろ人間という生き物が悲しくなりました。知り得ないことを知っているような気になって堂々と公表したりすることは恥ずかしいことなのではないかと思ってしまいました。

A. 2'' ですが、自分の知に限界があると自覚しながら、わかった範囲のことを、自分には、こう
25 思える、という限定つきで伝えることも必要でしょう。その限界の自覚なしに、おれがおれが・・・
というのが多いので、恥ずかしいことです。

Q. 3 批判的視点を持つという話がとても印象的でした。自分は相手や他者に対して、批判的な考えや視点を (もつのは) もちろん大切なことだと思いますが、同様に自分に対しても同じような観点を適用することはもっと大切だと思います。過信は信じることが過ぎる (こと) だと思うので、自分を信じることと疑うことのバランスやせめぎ合いが重要だと思いますが、先生はど
30 のように考えられますか。教えていただけるとありがたいです。

Q. 3' Critical な姿勢を先生から「真似ぶ」ことに共感します。今から書くものに、こういう姿勢で臨みたいと思いました。

Q. 3'' 不備なところを見つけて弱点を突き、批判する、というのはなかなか難しそうだと思います。

35 A. 3, 3', 3'' 「(自分は) ～と思いますが、先生はどのように考えられますか」シリーズができそうな丁寧な書き方、いたみ入ります (過分な表現をしていただいて恐縮です、という意味です)。お尋ねの件については、おっしゃる通りだと思いますが、相手に対しては、相手次第だと思います。

文献を読むときに、著者の思考を論理的に追って自分で理解し、なぜ、そう言えるのか、疑問が生じたら、読んでいる自分の理解に不足するところがあるのか、著者の側に不備があるのかと、
40 考えることとなります。多くの場合は、自分の理解に不足があるのですが...

Q. 4 先生は金縛りにあうとおっしゃっていましたが、それは夢とは違うものなおでしょうか？金縛りにあったことがないので興味があります。

A. 4 金縛りにはあわないほうがよいと思います。身体的に疲れていときになりやすい、と言われることがありますが、私の場合は、場所によることと、夢とは違って、自分が寝ていること

ははっきり意識していて、(金縛りからとけた後も、夢とは違って)記憶がはっきりしています。そして、私の場合は、私が寝ている所へ、誰か(一人のこともあるし、何人かのこともあり、しかし、誰か顔はわからない)が入ってきて、寝ている私を覗き込みます。

5 Q.5 東広島の広大の土地が野焼き的な焼き場であったという話について、一つは、昔々から、そういう土地(場所)であったから、広く安く手に入れられたのかな? と...

Q.5' 私の母校の高校は、体育館を建て替えるときに古墳が見つかり、人骨や土器などが見つかり、その調査のために新しい体育館の建設がとまりました。広大が移転してくるときも大変な騒ぎになったのではないかと予想します。

10 A.5,5' 文化財として価値のある、遺跡については発掘調査などは、今でもうるさいのですが、焼き場の人骨や霊については冷淡です。また、おっしゃる通り、そういう場所は、住宅地としては嫌われるので、学校や公共の建物、施設になっていることが多いようです。

Q.6 神様さえも人間がクリエイトした想像したものなののでしょうか。人間が信仰しなければ神は成り立たないと思いました。

15 A.6 タイトルを思い出せないのですが、小松左京の短編に、人間からの信仰心を糧に存在していた神々が死滅した惑星を、地球人の宇宙船が発見する、という設定の話があったのを思い出します。

Q.7 自分は言語を学ぶときにその言語の響きも結構気にしたりするのですが、ギリシア語の韻文の響きもとても耳に心地よく聞こえました。

20 A.7 ホメロスの『イリアス』などを熱狂的に朗読して、カセットテープに録音していた(CD化されているかどうか分かりませんが)学者がいましたが、お経のテープ、CDのように聴いてみたらよいのではないのでしょうか。サンスクリット、アラブ語、中国語、ラテン語など、どの言語にせよ、その言語の使用者にとっては、それぞれの韻文は快く聞こえるのではないのでしょうか。

25 Q.8 神々の姿は人間が勝手に思い描くものだ、という考えを聞いて、ふと、和辻哲郎の『風土』を思い出しました。その土地の環境、住む人々の姿にそって神話も生まれる・・・というような記述があったと記憶していますが、「エチオピア人たちは自分たちの神々が平たい花で色が黒いと主張し・・・(以下略)」のようにすでに紀元前に(て)指摘があったのは驚きでした。

30 A.8 和辻の『風土』ときくと、Augustin Berque (オギュスタン・ベルク)の『風土の日本』とか『空間の日本文化』を思い出しますが、訳語の問題ですが、これらは本来、地理学だけれども、『風土の日本』は、*Le sauvage et l'artifice — Les Japonais devant la nature* なので、直訳すると、『野生と人為 — 自然の前の日本人』で、邦訳の表題は、訳者と著者が相談して決めたいが、「風土」にあたる語はない。もっとも、ベルクは、和辻の『風土』を読んで、milieu (空間、場所)を「間の場所(mi-lieu)」と捉えて、その訳語を「風土」と決めていたというが、仏和辞典には、「風土」という訳語はなさそうです。『空間の日本文化』も、*Vivre l'espace au Japon* で、これも相当な意識です。が、どちらも、直訳よりも、内容を的確に表した表題になっていると思います。

35 Q.9 最近新しくバイトを始めたのですが、忙しくて少し嫌になってきました。嫌だけれどやらなくてはならないことに取り組む時先生はどうしていいですか?

40 A.9 これも、「～なとき、先生はどうしていいですか?」シリーズができそうですね。やるべき時間帯が決まっていなかったら(レポートや宿題のように自分でやる時間帯を決められる)、いやなものを先にやる、とか、出かけて行ってやる時間帯が決まっている、通常のバイトのような場合は、その仕事の中に、何か、楽しみをみつけてやる、とか。でも、キャリー先生なら、いやなら、やめればあ、とか言いそうな気がします。これでは答になりませんが。

西洋古代哲学史 第 11 回 (2019.05.21.)

Q. -1 私は RADWIMPS が好きなので、先生が『おしゃかしやま』の歌詞を読んで下さったのがうれしかったです。『有心論』をおすすめしておきます。

A. -1 また、見ておきましょう。「神様」という表現で何を想定しているかということで、受講者の一人から教えてもらったのです。それより、Radwimps の語の由来を教えてください。造語ですか。

Q. 0 レポートに関する質問です。第 1 タームの西洋古代哲学史が実施されている間に中間レポートを提出し、添削をしていただいたのち、期末レポートを 6 月中に提出したら良いという理解で大丈夫でしょうか。どうしたらよいか少し分からなかったので聞かせていただきました。

A. 0 そういう理解で結構です。最終しめきりは、判明次第、授業で（授業期間が終わってれば、メール等で）お知らせします。

Q. 1 クセノファネスの断片に「神はただひとつ—神々と人間どものうちで最も偉大であり・・・(以下略)」とありましたが、ここでいう「神々」が何を指しているのかよくわかりませんでした。ただひとつの神の下に「神々」がいるのは不思議な感じがします。

A. 1 クセノパネスの場合、本来の意味で、神といえるのは、ただひとつであり、世間の人々が、神々といっているものとは、(名前は神の複数形だが) 別のものと考えたほうがよいと思います。あえて言えば、それら(神々)は、神の下に従属する存在と解するのがひとつの理解の仕方でしょうか。

Q. 1' 神が人間に似ておらず、球体であるという説は、現代に生きる私としては、神の超越性や神性が強調されるように感じるが、親近感や信憑性に欠けるのではないかと思った。

A. 1 クセノパネスの神は、抽象的で、はたらき、機能が中心に想定されている、と言えます(理論的要請による)。ですから、信仰の対象にはなりにくいと言えます。

Q. 2 ヘラクレイトスの分かる人には分かる、というのは文法を複雑にして分かりにくくしたり、難しい語句を使っているのでしょうか？

A. 2 わかりにくい表現をしている、ということですが、～である、と言ったり、～でない、と言ったりしているようにみえて、どっちやねん！と思わせる言い方をしているということです。Fr. 35 と Fr. 40 はその例です。しかし、よく考えると、整合的に理解できるのですが...

Q. 2' ヘラクレイトスは万有の原理を火だと考えたときの「火」というのはいわゆる火を意図したのか、何か活動的なものの象徴として言ったのか... というのもよくわからないということですよ。

A. 2' そうですね。少なくとも、物質的な、物理的な「火」ではなさそうです。

Q. 2'' ヘラクレイトスの考えは、その後を生きた様々な哲学者たちに好まれ、それぞれによって独自の解釈がなされた、とありました。文学作品は、様々な解釈できるものの方がより価値が高いとされるそうですが、哲学の世界ではどうなのでしょう？

A. 2'' ヘラクレイトス自身には、何か主張したいことがあるとしても、彼が書いたものが完全には残っていないので、いろいろに解釈される可能性が生じているというのが現状です。哲学の著作としては、ああも読める、こうも読める、というのでは、困ります。読む人に、いろいろと考えるヒントやきっかけを与える役割としてはよいのですが、古代には、『プロトレプティコス(哲学への勧め)』というジャンルがありました。

Q. 3 パルメニデスの「真の存在は丸い」という思想から、イスラームの神の考えを思い出しました。確か、イスラームにおいての神もそのような発想にあった気がします。そうでありながら、ガブリエルのような「形ある神」という解釈が共存していることがよく分からない、と高校の頃に悩んでいたのを思い出しました。

A. 3 エレア派のパルメニデスの立場では、本来は、形而上学的な「真の存在」が述べられて

いるので、感覚（目）でとらえられるような「丸い」形ではないはずです。それを「丸い」というのは、あくまでも、比喩的に形を示さないと分かってくれない人々のために、あえて「丸い」と言っていると考えられます。しかし、それを後世になって、文字通り、空間的、物質的に理解することによって、それが原子論につながるようになります。

- 5 なお、「丸い」というのは、完全である（欠けるところがない）ということの比喩的表現でもあるので、イスラームのその考えは誰が言っているのか、ご教示ください。

Q. 4 汎神論と言えば、一元的汎神論を主張したスピノザのイメージが強いです。神は超越的な原因ではなくて、万物の内在的な原因であり、神は即ち自然であるという「神即自然」。でも神が「一切の完全性」をもっているという前提がそもそも誤りな気が...

- 10 A. 4 そういうことを平気で言える日本は、いいところだと思いますが、ヘブル語で『旧約』を研究していたスピノザのことが分かっていないという気が...。そして、もし完全であれば～となる、という論理構造を理解することことのほうが、哲学としては重要でしょう。

Q. 5 高貴な存在は自分からは動かないと聞いたとき、少し意味は違うかもしれませんが、家で父に「リモコンとって」と言われたら取って渡してたなと思い出しました。これは家という範囲の中では父が一番偉いからで、その範囲によって一番は変わって行って、世界を一つの単位としたときの一番が神様ということになるのかなと思いました。

A. 5 アリストテレスの『形而上学』Λ巻（12巻）で描かれる「神」がまさにそういう例です。「不動の動者」とか「愛されるものとして動かす」と言われます。

Q. 6 今から 200 年以上も前から神や人間について考えている人がいるということに思いをはせると、あまりにも長い時間答えの出ていない問いをのぞきこんでいるようで気が遠くなりそうです。なぜ人はそこまでして神を求めるのでしょうか。誰も見たことはないし、触れることもできないし、神がいるかどうか分からないから、そのままにしておこうとならずに、現代までずっと神を考える人がいることがすごいなと感じます。

A. 6 visio Dei（見神、神を見ること、会うこと）を熱望・希求する人々がいましたし、今もいるわけですが、質問者のさめた感じとは対照的です。

Q. 7 アリストテレスを題材にレポートを書き始めましたが、形而上学を参考に書いていますがやっぱり難しいです。

A. 7 アリストテレスの『形而上学』の日本語訳は 2 種類（?）、部分訳も加えると 3 種類（?）あります。図書館にもあると思いますが、Web 上でも、英訳（Ross）を見ることができるといいますから、日本語訳と英語訳をくらべて読んでみるとよいかもかもしれません。（もちろん、ギリシア語で読むのが理想ですが）

Q. 8 今日のコメント話の中で... 研究仲間の意識の話聞いて、本当に、皆、研究仲間という意識があれば、間違っただ箇所を調整するという研究姿勢は正に Critical な（浪人生活が続いて行く）生き方でしょうね、ラベツソンのよな...

A. 8 今の、個人の業績主義と（出身大学、分野の）学閥主義の下では、真の共同研究の仲間というのは、できにくいと思います。むしろ、排除の論理のほうが力をもつことになります。

Q. 9 自分が間違っただことを言わないという安全という話がありましたが、大学でも自分のやりたいことではないこと、言いたいことではないことを教授や研究室の意向や学者たちの世界のそのときの通説や主流によってやれなくて、社会にでてもそうだろうと思います。組織の中でやっていくには大事なんだろうなと思いました。となると、何事にも興味関心ない方が楽なんじゃないかと思ってしまう。

A. 9 そう言われると、教員としては、いや、しかし、少なくとも、学部生は、周囲を気にせず、自分がやりたいことをテーマに選んで卒論に取り組んでほしいと思います、と言わなければならないでしょうね。さらに研究を続けたければ、それができる大学院・先生を探して、そこへ行けばよいでしょうから。

西洋古代哲学史 第 12 回 (2019.05.23.)

Q. 1 ヘラクレイトスが (ママ, を?) 間違いで片付けることもできるが, そうするにはもつ
たいないというお話がありましたは, 私のような知識のない者からすると, 哲学者と呼ばれるよ
うな人々の考えは, どれもどこか突飛 (ママ, 拍?) 子もないというか狂っているように感じる
5 ことが多々あります. 理解できなくても, 諦めずに理解しようと努めていけば分かる日が来るも
のなんでしょうか?

Q. 1' ヘラクレイトスのいう「火が物質の根元」というのは, 物質・物理的なものではない,
という解釈は個人的に納得できるものでした.

Q. 1'' 高校の倫理で「ヘラクレイトスは万物を火からなる」と習ったとき, 水とか空気を基と
10 しているのと同じもおだと思っていたので, すっきりしました. でも火→土の死を生きる間に起
こる変化 (?) はどうやって説明するのだろう, と思います.

A. 1, 1', 1'' 水や土や空気, それに件 (くだん) の火も, なるほど, 物質の名称であり, 物質
的なものであることは間違いないのかもしれませんが, 「火」は, 一種の生命原理 (タレスの「水」のよ
うに) でもあって, この「生ける火」は, 見かけが「火」でなくなっても, 「生き」続けているよ
15 うに思います. ですから, ヘラクレイトスの断片からわかることは, 変化・転化の方向や順序が,
一方向に決まっているわけではなくて, 火→水→土とか, 土→水→火とか, 一方向ではない変化
が同時に進行しているようです.

Q. 2 ヘラクレイトスの p. 21, Fr. 10 「・・・万物から一が生じ, 一から万物が生じる」という
言葉を聞いたとき『鋼の錬金術師』という漫画に出てきた「一は全, 全は一」という言葉を思い
20 出しました.

その漫画では, 一を人間など個々の事物, 全を世界だと言っていました. 万物と世界はイコ
ルではないかもしれませんが, 近いものを感じました.

Q. 2' 話の途中の出発点と終着点は同じ物であるというのはおもしろいと感じました. 不死な
るものと死すべきものは互いに他の死を生き, 他の生を死んでいるというの (は) 創作物で設定
25 として使われそうだと思った.

A. 2, 2' 地デジ難民になる前に, 『鋼の錬金術師』は, 全体のストーリーがわからないまま,
深夜放送の TV でときどき見ていた記憶があります. その前か後に, 『黒執事』というのを見てい
ました (これは, 関係ないか・・・).

Q. 3 p. 20, Fr. 76, Fr. 36 の記述, 道家の相生相克の循環の仕方と微妙に似ているような気が
30 します.

A. 3 道家の典拠を調べてみる必要があるでしょうね.

Q. 4 神を愛するが故に各々の仕方と動かされるのが私たちなら, もしある人が盗みをはたら
いたり他人を殴ったりしても, それもまた, 「神への愛によって動かされたのだ!!」ということに
なるのでしょうか.

A. 4 そして, それは, 神にその責任があるわけではなくて, そういう動き方をしたものに, そ
の動き方の原因がある, というわけです. 正しく動くものもあるわけですから.

Q. 5 出隆訳の「形而上学」(ママ, 『形而上学』) でレポートを書いていた. 難解なので,
英訳も読んでみたいと思います. が, 新たな問題が浮上するのも怖い.

A. 5 まあ, そう言わずに読んでみてください. 英訳も数種類ありますし, 仏訳や独訳もあり
40 ますから, できればそれも参照してみましょう.

Q. 6 止まっているように見えるものも力が均等に働いて安定しているし, 全く変化のない流
転しないものはないなと思いました.

A. 6 πάντα ῥεῖ (panta rhei) ですか.

Q.7 スピノザと言えば、アインシュタインが私が一番最初に思いつくスピノザ主義者なのですが、「神はサイコロを振らない」などはスピノザの決定論の部分と感ずます。ギリシアでは決定論（運命論）と非決定論のどちらが主流だったのでしょうか。

A.7 決定論は、意志の自由の問題と連動しているので、意志の自由の問題が出てこない、運命論そのものが話題になりません。古代後期のストア派くらいから主題になるのではないのでしょうか。

ただ、(例えば、アリストテレスに批判されるという意味で、哲学的ではありませんが) 人の運命は神々によって決められる、という信仰や考え方は伝統的にあったのでしょうか、それに対して、

人間の運命は、その人柄がつくるもの (Fr. 119)

10 というヘラクレイトスの発言は、人間が自分で努力することを求めているように思います。

Q.8 今日は体罰の話が印象に残りました。個人的には指導は人の成長を促すためのものだと思うので、極端に言えば怒ることも必要ないと思うこともあります。自分が中学生や高校生ときはまだ体罰に近いことは残ってたので、時代は変わったなと思いました。

A.8 「怒ることも必要ない」というのは、「指示する」「叱る」「強制する」などとの関係で、15 どういう意味で理解しているかによるのでしょうか。たしかに、教員としての責任がどこまでかということを考えてみると、放っておく、というのもよいかと。

Q.9 オヤジギャクをオヤジが言うのは疲れているからだと聞いたことがあります。自分でくすつと笑うことによって疲れがいやされるんですかね... なぜ調和はあらわならざるものがよいのですか。

20 A.9 かくれている調和に気づく者が少なく、分かる人にしか分からない、というところにヒントがあるかもしれません。

人々は理解しない。どのようにして、拡散するものが自己のうちに凝集しているかを。

互いに逆方向に引き合うことによる調和というものがある。弓や豎琴にみるように。(Fr. 51)

25 Q.10 RAD・・・カッコいい、WIMPS・・・弱い者で、カッコいい弱者みたいな意味だったと思います。

A.10 なるほど、しかし、これは何語なのでしょう。たしかに、wimp は、(英)(俗語)で、「弱虫、いくじなし」ですね。rad は、radical の略なら「過激派」ですか、「若者」という意味がなかったかなあ、いや、「若者」は、lad でしたね。

30 Q.11 先生はいつラジオを聞いているのですか。ちなみに僕は休日に部屋の掃除をしながら聞いている。

A.11 家にいるときは、いつもきいています。大抵は、聞いていますが、ときに、聴くこともあります。また、CDを聴こうとするときは、もちろん、ラジオは off にしますが。

Q.12 考えがまとまりませんでした...

A.12 考えがまとまらないような授業をして、申し訳ありませんでした。

西洋古代哲学史 第 13 回 (2015.05.28.)

Q. -2 いつも眠ってしまい本当に申しわけないです。

A. -2 いえいえ、実は睡眠学習の効果があがっているかもしれません。

Q. -1 IC カードの話ですが、同じ学生としてショックです。

5 A. -1 教員としても、大学生協の側としても同じ気持ちです。

Q. -1' 講義最初に言われた、他人の落とした学生証を・・・「大事な話」と何度も言われていたのは、私たちに対する注意喚起の為かと思っていましたら・・・ヘラクレイトスの *θυμός, νόος, λόγος* にリンクしていったので「研究と実践」のことばが頭をよぎりました。

10 A. -1' 大事なことは、いつも利用する elevator の行き先のボタンが二種類あって、それぞれ機能が違うことに気がつくこと、です。それは、7 ページ (七頁) のことを、p.7 とか p7 とか P.7 とか P7 と書くと、この人、書き方を教えられたことがないんだな (私も、教えられた記憶はなくて、本を読んで知った気がします)、とか、注意したことがないんだな、と思われるので、p. 7 と書くことが大切なことであるのと同じです。私が授業で教えられるのは、この二つくらいだと思います。

15 Q. 0 最近、シャルル・ベギーの「クリオ：歴史と異教的魂の対話」が監訳版で出版されたのでパラパラ読んでいたら「魂」についての面白い記述があったのでご紹介したい。(以下、略。ドゥと紹介が続く)

A. 0 キリスト教にとっては、すでに、異教の魂があったから、それをつくりかえるだけでよかったが、もとは異教の魂なので、キリスト教の魂も異教的だという感じですか。

Q. 1 魂はしめったらよくないって、潤いは要らないんですね。

20 A. 1 はい、ヘラクレイトスの場合は、かわいているほうがよいようです。

Q. 2 ヘラクレイトスは「ロゴスの認識なしには、いくら知識を寄せ集めても意味がない」と述べていましたが、私は、知らないよりは知識を持っていることのほうが意味があるように思います。(前にも話があった、読んでいない本を持っていることの意味の話に似ているような気がしてきました)

25 A. 2 これは、この授業全体のイントロダクション (プリント, p. 3) でも取り上げた、Fr. 35 の「ピロソポス (知を愛する者, 哲学者) というものは、実に多くの事柄の探究者でなければならぬ」と r. 40 「博識は、本当の意味の知 (覚識) を教えない。もし博識が知を教えるのだとすれば、ヘシオドスにも、ピュタゴラスにも、クセノパネスにも、ヘカタイオスにもそれを教えたことであろう」というのとセットで考えるべき問題だろうと思います。考える能力だけあっても、
30 考える材料 (対象) がないと、考えようがないですから。

Q. 3 「博識はさとりを教えない」という断片が私の中でぼんやりしていたのですが、今日「私は自分自身を探究した」という断片を読み返していると、だんだんと納得できたような気がします。

真正とみなされる断片群でデモクリトスが 19 回も「魂」を使っているのが気になりました。

エレベーターのお話は肝に銘じておきます。

35 A. 3 デモクリトスのほうが気になっているようですが、残っているデモクリトスの断片のうち、原子論に関するものは、三分の一以下で、三分の二は、今で言う、倫理的な内容のものです。従って、「魂」もしばしば話題にのぼるわけです。原子論の立場は、一種の唯物論ですから、すべては「もの」にもとづいてできている、ということになると、「ころろ」や「善悪」などの価値判断をどう説明するかが大問題になります。ですから、デモクリトスも、なんとかして「魂」の
40 問題を考えざるを得なかったでしょう。

同じことが、マルクスの弁証法的唯物論にとっても問題としてあるので、唯物論にとって倫理学 (美学も) はいかにして可能かを考えなければなりません。因 (ちなみ) に、マルクスの卒論のテーマは「デモクリトスとエピクロスの原子論の差異」でした。

Q.4 ヘラクレイトスが「プシュケー（ママ、プシューケー）」という言葉が多様していたのに驚きました。高校の倫理では「万物は流転する」くらいしか習わないので、ヘラクレイトスが自己を探究した、というのは新しい発見です。

ところで、「真正の」というのはどのように判断するのでしょうか。その断片が本人によるもの、
5 というのは判断が難しいと思います。

A.4 「真正」かどうか（本人のものかどうか）を判断する絶対的基準はありません。が、ひとつは、解釈の循環を起こしますが、他の断片との整合性があるかどうかです。また、その断片を伝えている著者（引用者）が、他の引用でも信頼できる引用をしているかどうか、とうことが
10 あります。さらに、使われている言葉、表現がヘラクレイトスの時代の方言であるかどうか、ということもあります。

Q.5 現代で（と一般化していいのかわかりませんが）自分探しといえば、インド旅行ですが、古代の人は家で色々考えたりして自己を探究していたのでしょうか。

A.5 空間的移動としての旅行をするには、それができるだけの時間的経済的余裕がないとできませんから、簡単に～旅行というわけにはいかないと思います。

15 山田晶先生（京大の中世哲学の先生でした）と学生の会話にこういうのがあったのを思い出します（『山田晶 思い出の記』, pp. 222-223）。

「先生は、旅行やお出かけはなさいませんか？」

「学会でちょこちょこつと行く以外、あまり旅行とかはしないねえ。そんなに行きたいとは思わないからね。そもそもあっちこっち行ったところで、この質料的世界には限りがあるから
20 ね。それよりも永遠で無限のラチオの世界を飛び回っているほうが、私ははるかに自由でいいと思いますよ。」

ところで、ヘラクレイトスの場合、Fr. 115「魂には自己を増大させるロゴスがそなわっている」といながら、同時に、Fr. 45「君は道行くことによっては、ついに魂の終端を見出すことはできないだろう。いかに君があらゆる道にそって旅をしようとも、それはそれほど深いロゴスをもっているのだ」とも言っていて、魂は、自己の奥へ奥へと深く踏み込むイメージです。「道」というのは、おそらく、既存の方法のことで（たぶん、博識）、そうではなくて、本当の知恵によるのが、
25 ロゴスに従うことなのでしょう。そして、終端を見出すことはできないが、魂が自己の奥へ奥へと深く踏み込むことが、同時に、宇宙の魂として、増大することにつながる、というパラドクシカルな言い方になっているのです。

30 Q.6 予備レポートを早めに出せるようがんばります。

A.6 がんばらなくていいんだよ、と先生が言ってしまつては、某部署から怒られるかもしれませんが、自分のペースで書いてみて、そろそろ出してみようか、と思つたら提出すればよいのです。

Q.7 自分の未来はすでに決定されている、とすれば、未来のために努力する気も削がれるが、
35 “人間の運命はその人柄がつくるもの”だとすると、希望をもって生きられるなど思いました。私はその方が好きだなと感じました。でも、よくある“運命の人”とかには憧れている自分もいるので、どっちとも言えないないなという感じです…（略）

A.7 以前にもでてきた決定論には、ハードな決定論からソフトな決定論まで幅があるので、一概に言えませんが、努力するのに応じて、出会う“運命の人”も変わってくるように決まっている、
40 と考えることもできます。ただ、決定論だけ考えても、あまり意味がないので、というのも、哲学的には、何らかの存在論や認識論の主張があつて、それに基づくと、決定論（ハードかソフトかの違いがでてくる）にならざるをえなくて、決定論が主張されるわけです。

西洋古代哲学史 第 14 回 (2019.05.30.)

Q.1 ピュタゴラスの思想の正体を掴みにくい理由に記録不足、死後の伝説などがあるからという点、大変納得しました。

自分も先日伝達情報不足で友人とトラブルになっていたからです。

- 5 A.1 高橋和己が、人は(自分の)思いと(他人からの)思われで生きている、と(言われなくても考えてみれば)当たり前のことを友人に語っていますが、伝達情報不足ということも、問題は、その思いと思われが一致していなくて、ズレているところにあるのでしょうか。

Q.2 宗教的・神秘的傾向／数学的傾向、両方必須がバランスがとれてベストだと思われれます。個人的には...

- 10 A.2 それに関して、少なくとも、学部入試の2次試験には、文学部だからこそ、数学の試験を課すべきだと思いますが...

- Q.3 ピュタゴラスというと、私はいまだに数・数学的世界観であったり、某TV番組「ピタゴラ*イッチ」の冒頭で流れるあの見事な細工であったりを真っ先に思い浮かべてしまって、なかなか宗教的・神秘主義的側面が結び付いてこなかったのですが、輪廻転生のための数学研究と
15 聞いてようやく合点がいききました。

友人の生まれかわりだからと泣きついて犬への暴力をやめさせたのは、ピュタゴラスだったのでしょうか？

A.3 クセノパネスが伝える、ピュタゴラスの逸話として、次のようなものがあります。

- あるとき、彼(=ピュタゴラス)は小犬が打ち叩かれているところを通りかかり、
20 不憫に思い、こう言ったと伝えられている。

「やめよ、叩いてはならぬ。これは私の友人の魂だからだ。

その鳴く声を聞いてそれとわかったのだ。」(Xenophanes, Fr. 7)

- そして、こいう輪廻転生という考え方は、ピュタゴラスに限ったものではなくて、ほかにも、エンペドクレスの場合は、植物にも転生するようです。エンペドクレスの『カタルモイ(浄め)』と
25 いう著作の断片に次のようなものがあります。

なぜなら、私はこれまですでに少年であり、少女であり、

灌木であり、鳥であり、海に跳躍る物言わぬ魚であったのだから。(Empedocles, Fr. 117)

- どういう風にして、生まれ変わってくると考えられていたのかを知りたければ、プラトンの『国家』の最後にある、いわゆる「エルのミュートス」(Plato, *Republica*, X, 13-16, 614A-621D)を読むとよいと思います(というか、読め!と受講者全員に対して言っているつもりです.)。
30

プラトン、『国家』(下)、藤澤令夫訳、岩波文庫、pp. 354-373.

Q.4 普通に生活しているとピュタゴラスと言えば三平方の定理や「ピタゴラスイッチ」なのですが、宗教的性格も持ち合わせていて、それが数学とちゃんと繋がっているところが興味深かったです。

- 35 A.4 数学とちゃんとつながっていればよいのですが、伝えられる事柄には、神秘的・宗教的とみて評価してよいのか、それとも、後世、付け加えられた逸話の類なのか、紹介するだけにして、評価は差し控えさせていただきたいものもあります。

例えば、ポルピュリオスによれば、ピュタゴラスは、そら豆を食することを人肉を食することになぞらえて忌避したことになっています。それは、生命の発生過程において、人間もそら豆も

同じ腐敗から生じたからだというのです。ポルピュリオスによると、そら豆を割いて歯と一緒に太陽にあてておくと、人間の精液のにおい、別の伝承では、血のにおいがする、あるいは、花のついたそら豆を容器に入れて地中に埋めておくと、90日後に赤ん坊の頭、あるいは女性の性器が見出される、とか、あるいは、そら豆を通して、死者の魂が地上に戻って来るとか、いろいろなことが言われています。このあたりのことは、以前紹介した、B. チェントローネ、2000 (原著は、1996)、『ピュタゴラス派その生と哲学』、齊藤憲訳、岩波書店、の p. 107 以降の「食物の禁忌」に紹介があります。

Q. 5 ピタゴラスの時代にも輪廻思想があったのは意外でした。数学が苦手なので解脱できそうにはないですが...

A. 5 もっと古くから、輪廻転生という発想があったと考えられます。それを調べるには、「知識人以外の人々」が書いた著作（そんなものがあれば、知識人ということになるか）か、彼らがどう考えていたかを報告する文献があればわかりますが、それはすぐにはわかりません。しかし、むしろ逆に、「知識人以外の人々」が信じていたことを、知識人が著作に書き残している、とは考えられるので、現在の私たちが哲学以外の分野の文献（つまり、歴史や文学）とみなしている文献を読まなければなりません。魂は肉体が死ぬと離れて、また、別の肉体に宿って生まれて来ってしまう、というのは、一般的にそう思われていたようです。何に生まれ変わるかは、諸説あるようですが。例えば、ソポクレスの『コロノスのオイディプス』のコロス（合唱）1211 行以下に、以下のような一節がありますが、

この世に生を享けないのが、おお人間よ、

すべてにまして、いちばんよいこと、

だが生まれたからには、来たところへ

速やかに帰っていくのが次にいちばんよいことだと思え。

というのを、聴衆は聴いてなるほど、そうだなあ、と思っていたのではないですか。原典（つまり、ギリシア語の文献）にあたって自分で調べると、そうとう長生きしても調べられませんから、すでにある程度、そういうことを調べた先行研究を繙くのが、大体的見当をつけるのにはよいでしょう。例えば、ヤーコプ・ブルクハルトの『ギリシア文化史 (*Griechische Kulturgeschichte*)』というのが日本語訳で読めます。といっても、1冊あたり 500~600 ページの文庫本で 8 巻ありますが... ただ、これは、有名な『イタリア・ルネサンスの文化』(1860)とは違って、1872 から 14 年間におよぶ、バーゼル大学での講義をもとに、没後、出版されたものなので、評価はいろいろあると思います。

広範囲にわたってギリシア語の文献を渉猟し、ギリシア人が魂の転生をどう捉えていたかを研究したものとして、ニーチェの親友だった、エルヴィン・ローデの次の書（『プシューケー』）は有名ですが、もっと読まれてよいと思います（古いからこそ、最近のちゃちな研究書と違って信頼でき、読み応えがあります）。

Rohde, E., 1898, *Psyche, Seelencult und Unsterblichkeitsglaube der Griechen*, Freiburg I. B., Leipzig und Tübingen. (1925, Tübingen; 1961, Darmstadt; 再版では、副題中の *Seelencult* が、*Seelenkult* にされたりしている)

Q. 6 ブルーノ・チェントローネ『ピュタゴラス派—その生と哲学』齊藤憲訳、岩波書店、2000 を読もうと思ったのですが、図書館で別の本を見つけてしまい、そちらの方がおもしろそうだったので、そちらを借りて読んでいます。この本を読み終わったら、チェントローネの本も読んでみたいと思いました。

上記のように翻訳された本の場合は、著者が本を出版した年と翻訳が出版された年が異なることがあると思います。その時は出版年をどこに記せばよいのでしょうか？ 著者の後ろなのか、翻訳者の後ろなのか分かりません。私の勉強不足で申し訳ありません。

A. 6 ズバリ、お答えします (つて、むかし、なんかそういう番組があったような)。各講義共通ファイルの C_9 「引用の作法について」(高橋祥吾) の 8/13 ページを見よ。それによれば、

チェントローネ, B. 2000. 『ピュタゴラス派—その生と哲学』. 齊藤憲 (訳). 岩波書店.

となります。日本語訳が出版された年だけを表記します。文献リストに掲げるときは、著者名
5 は、チェントローネ, B. としますが、地の文 (本文) や、註の記述の中で言及するときは、B. チェントローネと書きます。(この区別ができていない本も出版されています。)

Q. 7 今日はレポートの話が印象に残りました。引用であったり、脚注は卒論にも生かせると思うので、確実なものにしていきたいと思います。

A. 7 分野によっては、縦書きの書式が定められていることと思いますから、すでに活字になっ
10 ている、自分の先生の論文や本の体裁を真似て、p. 23 ではなくて、二十三頁と書かなければなら
ないかもしれません。

Q. 8 引用の作法やその他書き方で学会とかできるんですか。

A. 8 1) 引用の作法や論文の書き方を研究対象として研究する人たちが「引用の作法」学会と
15 か、「論文の書き方」学会をつくっているかどうかは知りませんが、2) 或る学会や研究会、あるい
は、学派が、自分たちの好む引用の形式や論文の書き方を学会のメンバーに指定して論文を書か
せる、ということはあると思います。

Q. 9 なんとかレポートを書きましたが、今日の「引用の作法について」を見て、体裁がめちゃ
くちゃだと思いました。

A. 9 気づいた点を、今後、修正すればよいのです。

20 Q. 10 引用の仕方については去年のレポートの時にも調べたが忘れていたようだったので、き
ちんと勉強してからレポートを書くようにしたい。

Q. 10 というより、レポートを書きつつ、わからないことが出てくれば、その都度、調べる、
という仕方で書き始めればよいでしょう。普段から (メールでも何でも) 何か書くときには、自
分が読んでいる専門の文献の一部を引用して、原典、訳文、出典箇所、そしてできれば、文献の
25 書誌情報 (文献リストに書かれる内容) を記載するように心がけて、学術論文として通用する体
裁で書くようにすれば、苦勞せずに、自然と正しい書式で書けるようになるでしょう。

Q. 11 先生は資料プリントのどこに何が書いてあるか全て把握しているのですか? 自分で用
意したものだと頭に入りやすいのでしょうか。

A. 11 大体、わかっているつもりですが、覚えていないこともあります。

30 Q. 12 レポートの書き方にも色々あると分かりました。

様々な世界の構造を追求する学問が理解しようとしている「世界の構造」は、みんな同じなの
か疑問です。

A. 12 ある構造をもった世界を想定しておいて、それを、物理学が、地理学が、社会学が、法
15 律学が・・・というように、同じ対象をそれぞれの学問の方法で限定して研究する、というこ
が考えられますが、世界が一つではなくて、いくつもあって、それぞれの世界がもっている構造
は互いに異なる (かもしれない) という疑問でしょうか。

哲学として、この世界をどう捉えるか、という問題は、古代ギリシア哲学以来の正統派の問いで
あると思いますが、「世界」「構造」「意味」「法則」「客観的」「相対主義」などのことばを、暫定的
にせよ、定義して、理解すると、おもしろい人がいます。「事物が変化するにつれて、法則も変化
40 する」という言い方がされますが、パースも高く評価していたと言われる、F. E. アボット (Francis
Ellingwood Abbot, 1836–1903) の「客観的相対主義」と言われるものです。鶴見俊輔によれば、

アボットは、宇宙観においては、客観的相対主義 (objective relativism) という立場を取った。
個物だけでなく関係も実在する。われわれが採用する視点の変化に応じて、世界の意味が変

化する、そういう関係構造を世界が客観的にもつという。[鶴見俊輔, 1976, 『アメリカ哲学(上)』, 講談社学術文庫, p. 14.]

鶴見さんは、「客観的相対主義 (objective relativism)」という表現を使っていますが、パース ("What Pragmatism is", in *The Essential Peirce*, Vol. 2, p. 339, n. 12) が言及している、アボットの *Scientific Theism* では、Relationism とか Scientific Realism という言い方もされています。そこでは (Scientific Theism, p. 26), Subjectivity of Relations に対置される、Objectivity of Relations が問題にされています。アボットは、何を言おうとしているのか、また、何故、そういう考えをもつようになったのか、そして、パースは、これをどう評価しているのか、など、それぞれのテキストを繙いて調べてみる価値のある問題だと思います。

Q. 13 もとの自分の予定では、5/28 の授業で予備レポートを出していたはずなのですが、先延ばし、先延ばしにするうちに、タイトルのみしか決まっていなかったという状況になってしまいました。テスト期間を挟むので、それを言い訳にさらに先延ばししてしまいそうですが、6月上旬には必ず出したいと思います。

A. 13 とりあえず、できた所までで、提出してもよいのが、予備レポートのよいところです。できた所までで、気軽に出して下さい。

しかし、他方、最終レポートや、活字にしたものには、責任があるので、慎重によく見直してから提出するという態度も必要です。

第6回 (2019.04.25. 木) で、言及した、ホラティウスの有名な言葉に次のようなものがあったことを思い出してほしいと思います (これも、ちょっと昔のヨーロッパなら、中学・高校の学年で、また、日本でも、大学1, 2年で原典で読まされて知っているのが当たり前であったはずなのですが)。

Nonum[que] prematur in annum,
membranis intus positis. delere licebit
quod non eddideris ; nescit vox missa reverti. [Horatius, *De arte poetica*, ll. 388-390]

(原稿を) 家の奥深くしまって、九年目まで待たなければならない。
まだ公けにしていないものは破りすてることができるけれども、
言葉は一旦放たれると後戻りができない。(ホラティウス『詩学』より)

ところで、レポートの課題に示した文献のひとつは、「引用の作法について」では、「本(論文集)の一章(一部)を挙げる場合」(8/13)にあたるので、

赤井清晃, 2000, 「問答と探究としての哲学史—アリストテレスにおけるディアレクティケーの観点から—」, 渡邊二郎 (監修), 哲学史研究会 (編), 『西洋哲学史の再構築に向けて』, 昭和堂, pp. 54-65.

ということになるのでしょうか。これにも、書き方にヴァリエーションがあるので、「引用の作法について」の推奨する方法で書けば、

赤井清晃, 2000, 「問答と探究としての哲学史—アリストテレスにおけるディアレクティケーの観点から—」, 渡邊二郎 (監修), 哲学史研究会 (編) 『西洋哲学史の再構築に向けて』所収, 54-65. 昭和堂.

となるでしょう。

西洋古代哲学史 第15回 (2019.06.04.)

Q.0 大阪の人がナンパする時のことば「チャーシバク」・・・最初に聞いた時、先生の発音が素晴らしく、外国語かと思ってしまいました(笑)。「茶〜しばく」なら、意味、分かります。

高橋和己夫妻の著書、読んでみたいと思います。

5 A.0 是非、読んでみてください。

Q.1 ディオニシオスが公開したとされるプラトンの哲学的探究の究極目的というのは伝わっているのでしょうか。

A.1 プラトンの「第七書簡」からわかる以上のことはわかりません。それを知るために必要な訓練(トレーニング)をしないで、結果だけ知りたがる輩は、いつの時代にもいるのでしょうか。

10 スレザークが指摘する、プラトンとディオニシオスの関係とは異なりますが、ヘーゲル没後のベルリン大学で講義を始めたシェリングの講義内容を、シェリング自身が公刊する前に、ハインリッヒ・パウルスという人が、シェリングに無断で、シェリングの講義内容を学生の筆記ノートによって全文をことば通りに出版した事件(1843年)があり、シェリングはこれを告訴したけれども、シェリング側が敗訴し(1846年)、シェリングはついに講義をやめてしまったということが

15 あります。

Q.2 1ターム(学期)ありがとうございました。

2タームでもお世話になると思いますのでよろしくお願いします。

数学は大学入学以来一切関わってきませんでした。先日久しぶりに理系の友人に問題を見せてもらったところ、すっかり解き方など忘れていました。高校時代はよくやったなあと思います。

20 A.2 数学ほどではないかもしれませんが、集中講義の「論理学」(関口先生)はぜひとって頭をやわらかくしてください。

2学期の「西洋中世哲学史」ですが、中世哲学の専門家による講義を提供できなくて申し訳ないと思っています。

25 Q.3 「魂の浄めのためには *μουσική* が必要である」というのをきいて、私がいちばん好きな作家さんの著作にある、「人間がつくったものの中で一番素晴らしいのはミュージックだ。」という台詞を思い出しました。実際、海外の内戦地では、音楽というものが生活から消えてしまうため、例えばピアノなどを弾いてあげるだけで、兵士たちが集まってきて、敵意を忘れて音楽を楽しみ出す、疲れた兵士たちは涙を流して喜ぶ、という話をきいたことがあります。そういう意味では、魂の浄めのためには *μουσική* が必要というのは、真なのかもなあと思いました。

30 ピュタゴラス独特の考えが、当時の人々にどれくらい受け入れられていたのかが気になります。

A.3 その「素晴らしい・・・ミュージック」として、念頭におかれているのは、どういうジャンルの音楽だったのでしょうか。それとも、限定せずに、音楽全般でしょうか。

日本の映画でも、外国の映画でも、戦場で、兵士がピアノを弾くひとときが描かれたものがありますね。(ほとんど映画はみませんので、TVで放映されたものを見た記憶によります)また、日本でのベートーヴェンの第九¹³の初演は、第一次大戦で、日本の捕虜になったドイツ軍の兵士たちが、徳島県内にあった収容所で演奏したとき、ということになっていることは有名です。

40 Q.4 ピュタゴラスは、音楽の美と調和が魂に影響を及ぼすと考えていたということでしたが、中国の孔子も楽を推奨したと記憶しています。古代インドでも、生活の中の様々な教を歌で伝えた・・・というのをどこかで読んだ記憶があります。音に何か特別な力を見出して使おうとしているのは、人間に限ったことではないかもしれませんが、よくよく考えると不思議なことだと思えます。

A.4 次のQ.5とも関係しますが、音楽と言っても、どういう音楽のどういう特徴に着目して

¹³だいく、と読む。交響曲第9番ニ短調作品125「合唱」の略称。

いるのかを考える必要があるでしょう。例えば、「法律」の「律」は、もとは、「律管」という楽器を表し、そこから、規則やルールを意味するようになったわけですし、ギリシア語の νόμος(nomos) も、「法律」と訳していますが、これももとは、宗教儀礼で用いる音楽・楽曲を表し、その背後には、規則とかルールという考え方があったはずで、音楽には、あらかじめ、そういう規則やルールに基づいて成り立っているという側面があって、そういう規則に従って作られた曲を聴くと、聴く人の魂に何らかの影響を及ぼす、という構図です。そういう規則は、ピュタゴラスの場合は、音楽の美と調和となって現われているということなのでしょう。

Q. 5 哲学と音楽はよく似ている部分があると思いました。

A. 5 具体的にどういう点が似ているか考えてみると、論文やレポートになるかもしれません。

Q. 6 最後の右足から歩くべきといった話はスポーツとかでどっちの足からグラウンドに入るかといった類いの話と似ているような気がした。哲学者がこのように言うのであれば、僕も今度サッカーをするときは右足から必ずグラウンドに入ろうと思いました。また、レポートに関する自分の疑問に的確に答えていただきありがとうございます。

A. 6 自分がよいと思ってやるのであれば効果があるのかもしれませんが。

Q. 7 ピュタゴラスが宗教結社をつくっていたのは知っていましたが、こんなに怪しいものだとは思いませんでした。特に「何をなすべきか、なすべきでないか」の(10)そら豆をたべてはいけなはいけないとは、ピュタゴラスが嫌いなだけだったように思います。

レポート頑張ります。そうこうしているうちに、第二タームの「中世哲学」の方のレポートも積み重なりそうで怖いです。

A. 7 それほどあやしい、とも思いませんが、右手(?)から書き始めて、時間を上手に使い、レポートに早めにとりかかってください。

Q. 8 たびたび出てくる「そら豆」は何故、神聖視されているのでしょうか。もし以前に説明されたことがあるのであればこの質問はゴミ箱に放ってくださいかまいません。

A. 8 一言、説明したような気がするのですが、していないかもしれないので、簡単に触れておきます。まず、「そら豆を食べてはいけない」というのは、ピュタゴラス派に特徴的な、有名な戒律とされています。しかも、食べてはいけないのかは、秘密です。従って、ピュタゴラス派の人の口からそのわけを聞くことはできません。そこで、例えば、アリストテレスは、考えられることをあれこれ推測しています(ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』, VIII, 34. に伝えられています)。それによると、人間の局部に似ているからだとか、ハデスの門に似ているからだとか・・・その他いろいろな可能性を挙げています。しかし、これらは推測なので確かなことはわかりません。B. チェントローネ, 2000 (原著は, 1996), 『ピュタゴラス派その生と哲学』, 斉藤憲訳, 岩波書店, の p. 107 以降の「食物の禁忌」も参照して下さい。

Q. 9 右足から歩み始めるべき、足を洗うときは左足から始めるべき、とありましたが、ごはんを食べるときは、こちらの手、あくしゅはこっち、みたいに足にも聖なる足と俗な(る)足があすのかなと思いました。

A. 9 「聖」と「俗」という概念は、キリスト教を前提として、思い起こさせるので、「清浄」と「汚れ」という対比のほうがあたっているのかもしれませんが。

Q. 10 自分が深く関心を持っていることが、それをあまり知らない人たちに謝って解釈され、誤った解釈が世間に広がってしまうのは辛いだろうと考えます。私もアニメが好きなので、誰かがそのアニメについて違うことを言っているとなんだかもやもやします。

A. 10 或る事柄(アニメでも何でもよい)について、深く理解している人が、必ずしも、世間の人々に、その事柄を教えたり解説したりする仕事(解説者でも、教員でも)をやっているとは限らないので、たまたま、テレビに出て来てしゃべっている人の解説が正しいとは限らない、ということは、しばしば起こります。それが、「もやもや」の原因でしょう。そういう人を解説者に採用する資格や能力のない人が、権限をもっているからです(自分でわからないという自覚があれ

ば、知っている人に助言を求めればいいのに、わかったつもりになっていることが多いでしょう。これは、プラトンの『ソクラテスの弁明』でも、他の対話篇でも、プラトンが繰り返し、ソクラテスに語らせていることです。

5 今年の3月に、中川靖造、1997、『エレクトロニクス王国の先駆者たち 海軍技術研究所』、光人社、という本を読んで何十年経っても、相変わらず、同じことをやっているなあ、と思ったことがあります。

それは、こういうことです。簡単にいうと、日本は、アメリカと同等の性能の電探（レーダー）をすでに作っていたが、軍の首脳が無理解のため、その性能を発揮させて使うことができなかつた、ということです。

10 たとえば、電探は装備する場所が高ければ高いほど威力を発揮する。遠くまで電波が届くからだ。最初「伊勢」「日向」の装備実験のとき技研が電探をメインマストの最上段に装備しよう主張したのも当然だった。

ところが、用兵者はそれが気に入らない。「そんな高いところにつけたらトップヘビーになる。艦が旋回するとき邪魔だ」と反対した。結局、用兵者の言い分を認め、設置場所を測距儀の下に降ろすことにした。

また、アンテナも小さく、コンパクトにすることを要求され、地上実験のときの半分の面積にせざるを得なかった。電探はアンテナの面積に比例してエリアが広がるのに用兵者にはその理屈がわからない。このため実験段階では二十キロ、三十キロ届いた電波が、装備段階で十キロ、十五キロと性能が落ちる。それで互角に戦えというのだから用兵者側のきびしい要求は技術者の常識を超えていた。（前掲書、pp. 198-199）

同様のことは、他にも書かれているのですが、戦後、アメリカの船が横須賀に入港してくるのを見ると、小さな船に至るまで、どの艦もでっかいレーダーを最上段につけていた、ということです。

25 レーダーのことをわかっている人（技術者）が言うことを、軍の首脳や用兵者（艦長や司令官など）を理解できないで、でっかいのはみっともないから、小さくして下のほうにつける、と命令したようです。

私には、このことが、哲学・西洋哲学史を研究するには、たとえ、近現代の哲学を研究するにしても、西洋古典語（ギリシア語、ラテン語）と論理学の知識が必要なのに（それだけでなく、ドイツ哲学をやるにしても、フランス語や英語などの近代諸語の知識も）、ドイツ哲学をやるならドイツ語だけ読めばよいような授業を行なって、担当する教員もドイツ語と、せいぜい、英語しか読まない人たちがばかり採用している現状とそっくりに思えます。これによって、研究の射程距離と深さ・高さに制限を、自分から設けているようなものです。つまり、哲学の分野であれば、その同じ分野に、複数の教員スタッフを配置することができるのなら、それぞれの守備範囲はバラバラにするべきで、3人いれば、少なくとも5ヶ国語のテキストを読む授業を展開することができるはずですし、実際、まともな大学ならば、そうなっています。権力・権限をもつ人の見識が問われるところです。

Q. 11 手に入れることができたなら、『形而上学』の英語版を読んで、レポートを仕上げたいと思います。

40 A. 11 Oxford Translation の英訳全集に入っている、D. Ross の訳は、Web 上で閲覧できると思います。図書館に本がありますし、他の英訳も何種類かあるはずです。

<レポートの書式サンプル>

予備レポートを読んで

文学部／人文学科（←入れる）／哲学・思想文化学コース／西洋哲学分野

Bxxxxxx 空又鶴造

- 5 学生諸君のレポートを読むと、自分の所属名を正確に書けない人がいるのには驚かれされる。「～学専攻」などと平気で書く輩には、『学生便覧』のどこにそう書いてもよい根拠があるのか示してもらいたい。また、聞き慣れない、いや、見慣れない言葉も頻出する。例えば、「哲学者」というのは、何を言っているのか。しかし、レポートどころか、世の中には、金返せ！と言いたくなる本が少なからずある。特に、最近の新しい文献にそれが目につくように思われるのは気のせい
- 10 だろうか。研究書、論文にせよ、翻訳にせよ、最新のもののほうが、優れている、というようなことは一概に言えないどころか、昔のもので、あまり注目されないで現在に至っているもののほうが、優れているものがある。今世紀になってから出版された、ひどい例をひとつ挙げよう。M山J一¹⁴は、次のように言っている。

- 15 なお、タイトルには「哲理」—「最古の哲理の antiquissimi philosophematis」—というやや馴染みの薄い語が含まれている。「最古の」は問題ないとして「哲理の」と訳した philosophematis は、動詞 philosophemo の現在分詞 philosophemans の属格形である。[M山, p. 12]

- ここで言われていることは、全く間違っている。現在分詞 philosophemans の属格形は, philosophemantis であって, philosophematis は, 中性名詞 philosophema の単数・属格である。この著者は、他の箇所では、ギリシア語について、φιλοσοφούμενον は、動詞 φιλοσοφείω の現在分詞 φιλοσοφείομαι
- 20 の対格形である (M山, p. 35) と言っているけれども、これも間違っており、現在分詞ならば、それも、中受動形の φιλοσοφούμενος で、その中性単数主格=対格であって、この場合は、対格ではなくて、中性単数主格としての φιλοσοφούμενον である。他にも、ギリシア語の表記自体が間違っている箇所がある (M山, p. 17) が、もうたくさんである。この人は、この本を書いた時点で、日本の某大学の教授で、博士号ももっており、チュービンゲン大学、バイエルン科学アカデ
- 25 ミーに留学したことがある上に、カイザースラウテルン大学 (ドイツ) の客員教授も勤めたことがある、というのだから、肩書きなど全くあてにならない。

文献

M山J一, 2004, 『人間と悪』(叢書シェリング入門1), 萌書房。

¹⁴実名を伏せて、M山J一としたが、書名から誰だかわかる人にはわかるだろう。

レポートの文体について (補足)

「よって」の意味については、すでに言及しましたが、一般に、接続助詞、接続詞の有無と、意味、ニュアンスの違い、というよりも、読み手に与える印象に配慮して下さい¹⁷。言い換えると、みなさんの年齢の人たちどうして通じる「ことばづかい」ではなくて、自分より年配の人に読まれることを想定して書け！ ということです。

具体的な例をあげると、この Q. & A. でも、「ある意味」という表現が使われることがありましたが (実際、他の文献でもよく見かけます)、「ある意味」は、これ自体では、名詞であって、口語では、ドイツ語の 4 格 (対格) 副詞のように、副詞的に「ある意味では」とか「ある意味で」というイミで使われています。それなら、「では」や「で」を略さずに、全部書け！ ということです。年配の読み手は、「ある意味」を、頭の中で「ある意味では」と補って理解しています。こういうことを読み手にさせるのは、読み手に charity を要求している、といいます。それが文学作品で、作者が意図して使っている手法であれば、それを使うのは作者の自由ですが、レポートや卒論などの学術論文では、余計なことであり、読み手に charity を要求するようなことをするべきではありません。そういうレポートを採点する立場に私があれば、減点します。この種の表現については、谷崎潤一郎の『文章読本』(中公文庫)を、まだ、読んだことがない人は、死ぬまでに一度は、それもできるだけ早いうちに手にとって読んで下さい。

次に、おそらくは、パソコンやワープロの漢字変換のせいで、やたらと何でも漢字で書く傾向がありますが、かつては、そして、いまでも、次のような原則に従って書いている人たちがいます。

動詞についてですが、動詞の目的語になる名詞が具体的な場合は、動詞も漢字で、抽象的な場合は、動詞は平仮名という区別です。例えば、次の例を見て下さい。

手に小旗を持つ。 / 寛容な心をもつ。

というように、です。この区別は、ある時期までの書き手によっては徹底しているので、他人の書いたものを読むときに、注意してみてください。ワープロやパソコンの使用が広まるにつれて失われつつあるのが実に残念な区別です。

なお、日本語の表記、表現、特に格助詞については、先に紹介した、

横井忠夫、1971、『誤訳 悪訳の病理 ミスを防ぐための α から ω まで』、現代ジャーナリズム出版会

の p. 150 などを参照。この本は、後に、違う出版社から再刊されていますし、図書館にも数冊あるようです。

¹⁷ 例えば、「実際」「実際に」「実際には」は、全部、意味合いが異なりますが、使い分けられますか。自分で使う前に、他人が書いた文章に出てくる場合、これらを読み分けることから始めるべきですが、ついでに、みなさんが、この Q. & A. に書く表現の中で気になっていることのひとつは、「文」と「文章」を区別していない人がいることです。ひとつの「文」を「文章」と言っている場合が目につきました。「文章」は、いくつかの「文」が集まったもの、という定義があります。